

巨大地震災害に関する市民意識調査 ～兵庫の被災地と静岡との比較から～

研究調査報告書

2011 年 3 月



(公財)ひょうご震災記念 21 世紀研究機構
研究調査本部

まえがき

以下に報告する調査「巨大地震災害に関する市民意識調査～兵庫の被災地と静岡の比較から～」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構における2010年度の研究テーマの1つとして実施された。研究の目的は、市民の防災意識を16年前に大震災を経験した兵庫県と、大震災の到来が予測されて久しい静岡県とを比較して、それぞれの地域における防災体制について何らかの教訓を得ようというものであった。

市民の防災意識については、インターネット調査によって神戸市と淡路島から合計800人、静岡市と浜松市から合計800人の回答を得た。1600人の回答からはさまざまな地域の特徴を読み取ることができた。詳しい分析は本文に譲るが、兵庫県の回答者は大震災の体験者としての防災意識を語り、静岡県の回答者はかなりの切迫感をもって予期されている（しかし未体験の）災害に対する防災意識を語っている。

しかし、この調査が終盤にさしかかった2011年3月11日、東北から関東にかけての広大な地域を、大震災と、大津波と、原子力発電所事故が襲った。その衝撃は阪神・淡路大震災の数倍に達するものと予想されている。こうした事態の展開を受けて、おそらく兵庫県の居住者も静岡県の居住者も、災害に対する意識の変更を余儀なくされていると思われる。したがってここで報告されたような調査は、ある程度定期的に継続して行うことも意義深いであろう。

調査のとりまとめと報告書の執筆に当たっていただいた安藤文暁氏は、神戸新聞社から出向していただいて、当研究機構の特別研究員をお願いしている。この調査を基に、安藤研究員が神戸新聞紙面に掲載された記事は、研究にご協力いただいた武田愛一郎氏が静岡新聞紙面に発表した記事とあいまって、2つの地域での市民防災意識の比較研究に役立った。ご担当いただいた安藤研究員と、神戸新聞社、および静岡新聞社にも心から御礼申し上げます。

2011年3月末

ひょうご震災記念21世紀研究機構
研究統括 林 敏彦

研究体制

研究統括	林 敏彦	(公財)ひょうご震災記念 21 世紀研究機構研究統括 同志社大学教授
研究者(報告書執筆)	安藤文暁	(公財)ひょうご震災記念 21 世紀研究機構特別研究 員
研究協力	武田愛一郎	静岡新聞社記者

目次

はじめに	1
第1章 巨大地震災害に関するアンケート調査結果	2
第1節 兵庫、静岡の概要	2
第2節 回答者のプロフィール	4
第3節 防災行動（1 非常用持ち出し品の準備 2 室内防災 3 日々の防災行動）	6
第4節 防災意識 （1 地震想定 2 避難生活の不安 3 被災時の対応 4 救助や支援への期待 5 生活上の不安）	10
第5節 3連動と予知	15
第6節 耐震化しない人々の心理	16
第7節 避難訓練と自主防災組織	17
第2章 まとめと提言	19
第1節 震災を生かそうとする意識	19
第2節 震災の記憶を継承することの課題	20
第3節 提言	21
アンケート詳細	22
新聞掲載紙面	42
謝辞	50

はじめに

1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災は、死者数6434人、行方不明者3人、負傷者数も約4万4000人に及び、建物の全半壊は約25万棟、全半焼約7千棟に達した。日本の近代都市が初めて直面したマグニチュード(M)7・3、最大震度7の巨大直下型地震である。

しかし、地震の被害はマグニチュードや揺れの種類で決まるものではない。その土地に住む人々の「防災意識」が影響している。震災前、地震に対する行政や市民の関心は薄く、そうした社会の“無防備さ”が甚大な被害をもたらしたともいえる。

震災から16年。被災地では「天災は忘れたころにやってくる。だからこそ震災を忘れてはいけない」との意見をよく聞く。街には震災のモニュメントが数多く建ち、市民は日常的に震災を振り返ることができる。行政の防災啓発・教育も、どちらかといえば、震災の継承に重点を置いている。新聞やテレビの震災報道も大きく変わらない。失われた命をしのび、遺族らの痛みを伝え、「同じ悲しみを繰り返してはならない」と訴えることで、防災の大切さを訴える。

だが、人の痛みを感じ取り、あの日を忘れない、という「心」は目に見えない。市民は本当に被害を抑える行動を取っているのだろうか。

今後30年以内に60%程度の確率で発生が懸念される南海地震は、兵庫県に「長周期地震動」をもたらすとされる。被災地は、かつて経験した「直下型」とは違うタイプの揺れに向き合うことになる。震災の記憶がどのように継承され、どんな教訓につながり、その意識や行動に見直すべき点はないか、検証が必要と考えた。

調査はアンケートを実施した。被災地となった神戸市と淡路島の計800人を対象とし、静岡県800人と比較した。東海地震が「明日来てもおかしくない」といわれ続けて30年以上が過ぎた静岡県では、死傷者数が最大11万人という甚大な被害を想定して対策が取られている。市民の危機意識は高いに違いない、と予測した。ほとんど無警戒の中で震災を経験しながら、現在、静岡ほど深刻な地震被害が見込まれていない兵庫県とは防災の歴史が対照的で、両県の意識や行動の「差」に注目してみた。

アンケートの詳細は別紙にまとめた。なお2011年3月には宮城県沖を震源とするマグニチュード9・0の地震が発生し、4月2日現在も捜索が続いている。死者・行方不明者数は2万5000人を超えており、兵庫・静岡においても2010年12月の調査時から防災意識は変化している可能性は高い。

第1章 巨大地震災害に関するアンケート調査結果

第1節 兵庫、静岡の概要

～自治体規模～

アンケートは2010年12月14日から28日まで、インターネット調査会社に回収を依頼した。対象は20歳以上で、神戸市750人と淡路島50人に加え、静岡市400人、浜松市400人から回答を得た。以下、神戸・淡路を「兵庫」、静岡・浜松を「静岡」と表記する。

	静岡	兵庫
回答者	800人	800人
男性	48%	49.9%
女性	52%	50.1%

	兵庫県側		
自治体	兵庫県	神戸市	淡路島
人口	558万4069人	154万2458人	14万8322人
世帯数	225万7302人	68万5639人	5万8365人
統計時点	2011年3月1日	2011年4月1日	2011年1月末～4月1日

	静岡県側		
自治体	静岡県	静岡市	浜松市
人口	375万9382人	72万4026人	81万8841人
世帯数	139万9083人	29万8127人	31万7904人
統計時点	2011年3月1日	2011年3月末	2011年4月1日

～静岡、死傷者11万人の被害予測～

静岡県で太平洋戦争後に起こった主な地震災害としては、1974年の伊豆半島沖地震（M6・9、死者30人）、2009年8月の駿河湾地震（M6・5、死者1人）などが挙げられる。ただし、調査対象とした県中・西部で大きな被害は出ていない。

最も警戒されているのは東海地震である。過去におよそ100～150年周期で発生しており、内閣府の中央防災会議によると、今後30年以内の発生確率は87%。マグニチュード8・0の地震で、静岡県、山梨県南部、愛知県東部にかけて7900人から9200人が死亡するとの被害想定（午前5時発生の場合）が出されている。

東海地震と東南海地震、南海地震は連動する可能性が指摘されている。詳しくは5節「3連動と予知」で触れるが、以下、現在までに東海、南海がそれぞれ単独で起きた場合について、両県の被害予測を紹介する。

地震	東海地震(予知なし)	東海地震(予知あり)	南海地震
発生確率(今後30年)	87%	87%	60%程度
死亡者数	5851人	1470人	605人
負傷者数	10万4305人	2万754人	3639人
2011年3月時点公表の兵庫、静岡両県の防災計画から抜粋			

～神戸、淡路でも山崎断層で最大震度「7」～

上の表をみるように、静岡県に比べ、南海地震を想定した兵庫県の被害は少ない。（2011年度から中央防災会議が3連動地震に本格的に乗り出すことから、両県の被害予測が今後、変更される可能性はある）。それでも、兵庫県の発生確率が低いとはいえ、神戸市や淡路島で大きな揺れをもたらす地震が予測されていないわけではない。以下、予測されている地震を示す。

地震	東海・東南海・南海の連動型	山崎断層帯	六甲・淡路島断層帯	有馬―高槻断層帯
発生確率(今後30年)	60%程度	0.03～5%	0～1%	0～0.03%
神戸市の最大震度	6強	7	7	7
淡路島の最大震度	6強	6弱	7	6強

参考

静岡の銀行や新聞社の取り組み



静岡銀行の登呂支店（静岡市葵区石田2）で撮影。同銀行は地震発生時に利用客に身を守ってもらおうと、ロビーなどに「お客様用ヘルメット」を並べる。

静岡銀行は、2001年9月11日に発生したアメリカ同時多発テロをめぐる逸話で有名だ。航空機が激突した世界貿易センタービル。頭を手でおさえて逃げまどう人が目立つ中、同銀行ニューヨーク支店（80階）の行員ら7人はヘルメットをかぶり、整列して避難した。その対応は「避難訓練の成果」などと国内外で評価された。

静岡では地元メディアにしても、やはり対策を考える報道を重視している。静岡新聞社は9月1日の「防災の日」、12月第1日曜日の「地域防災の日」に合わせ、その年の訓練の課題を検証したり、東海地震で最新の研究成果を伝えたりするキャンペーン報道を展開している。

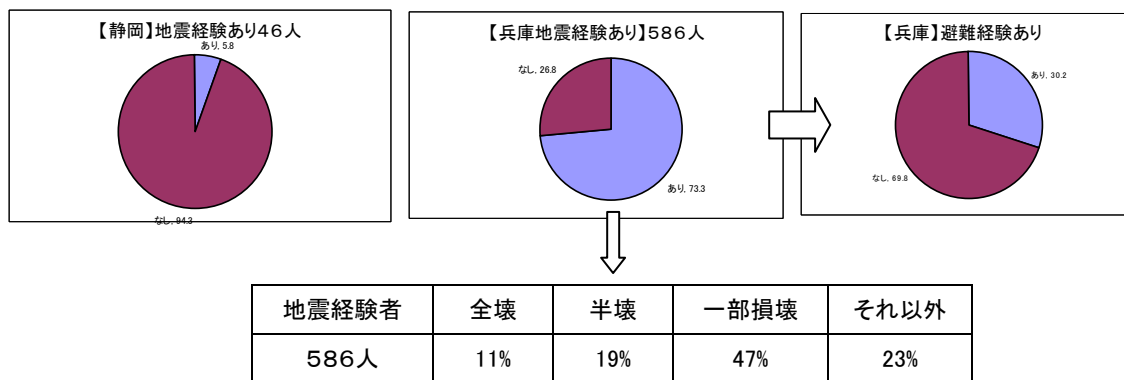
第2節 回答者のプロフィール

～兵庫、「震災を知らない」回答者は27%～

兵庫の800人のうち、地震の経験者は586人で、全壊11%、半壊19%、一部損壊47%、それ以外23%だった。地震による避難生活の経験者は177人だった。

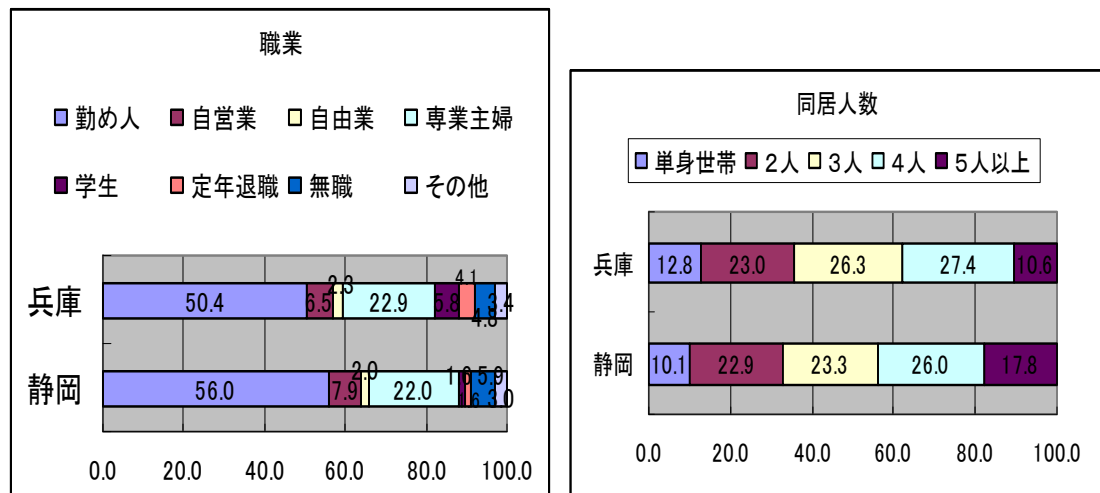
神戸市では、阪神・淡路大震災後に市外から転入したり、震災後に生まれたりした「震災を知らない市民」は2010年1月時点で36・1%となっており、アンケートでも地震経験がない人を27%確保した。

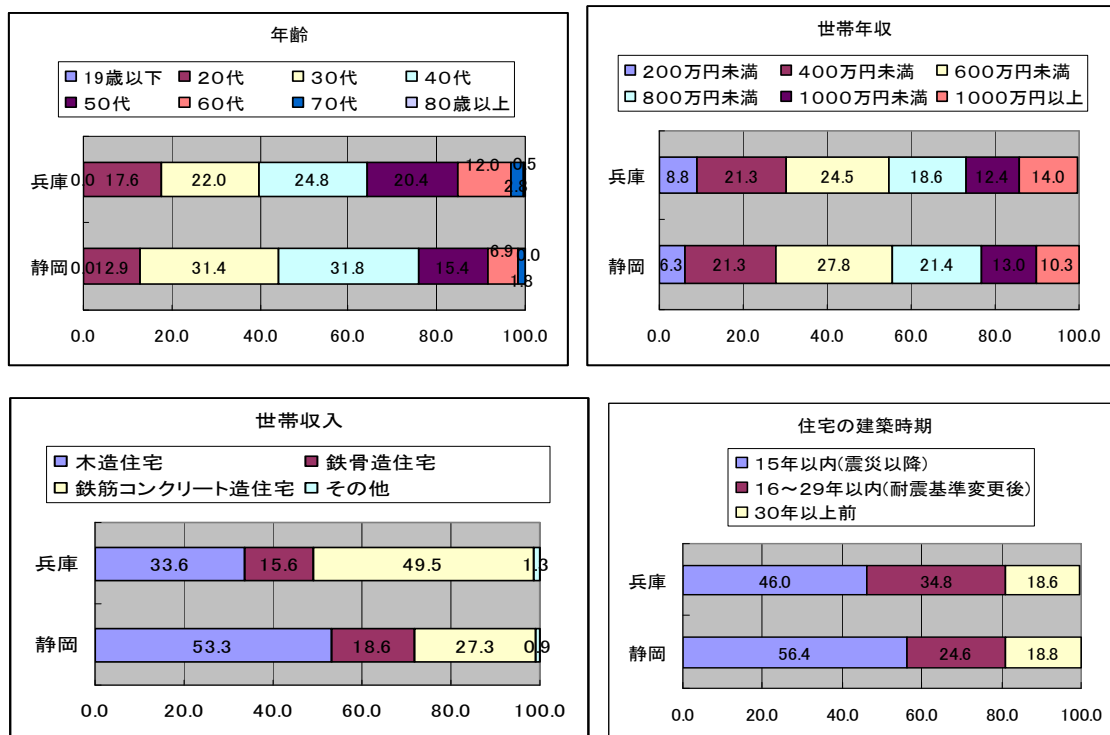
一方、静岡は800人のうち、地震の経験があるのは46人、避難経験者は3人だった。



～アンケート回答者の属性～

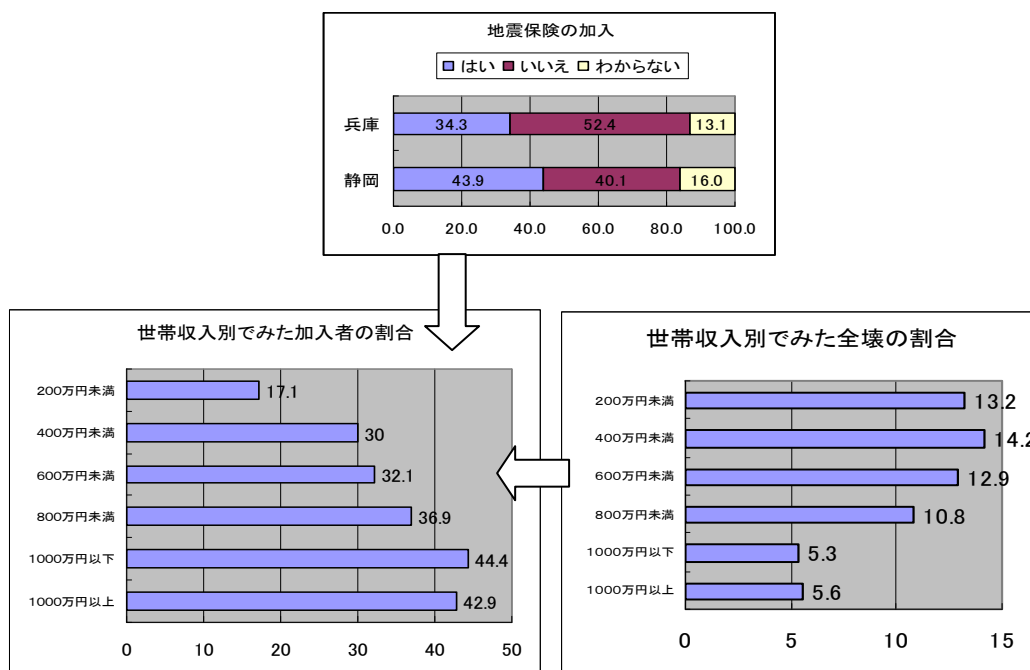
属性調査は以下の通り。「世帯収入」や「住宅建築の時期」はクロス集計にも用いている。





～地震保険の加入率は年収少ない人ほど低い～

地震や火山の噴火、津波による住宅や家財の損害を補償する「地震保険」の加入率は、アンケートで兵庫34%、静岡44%。日本損害保険協会によると、全国の加入件数は2010年3月時点で1227万件となり、阪神・淡路大震災前の約4倍に増えた。ただし、下記の図のように、アンケートでは家屋が全壊した人は世帯収入が少ない人ほど多いが、加入率は世帯収入が低い人ほど低い。



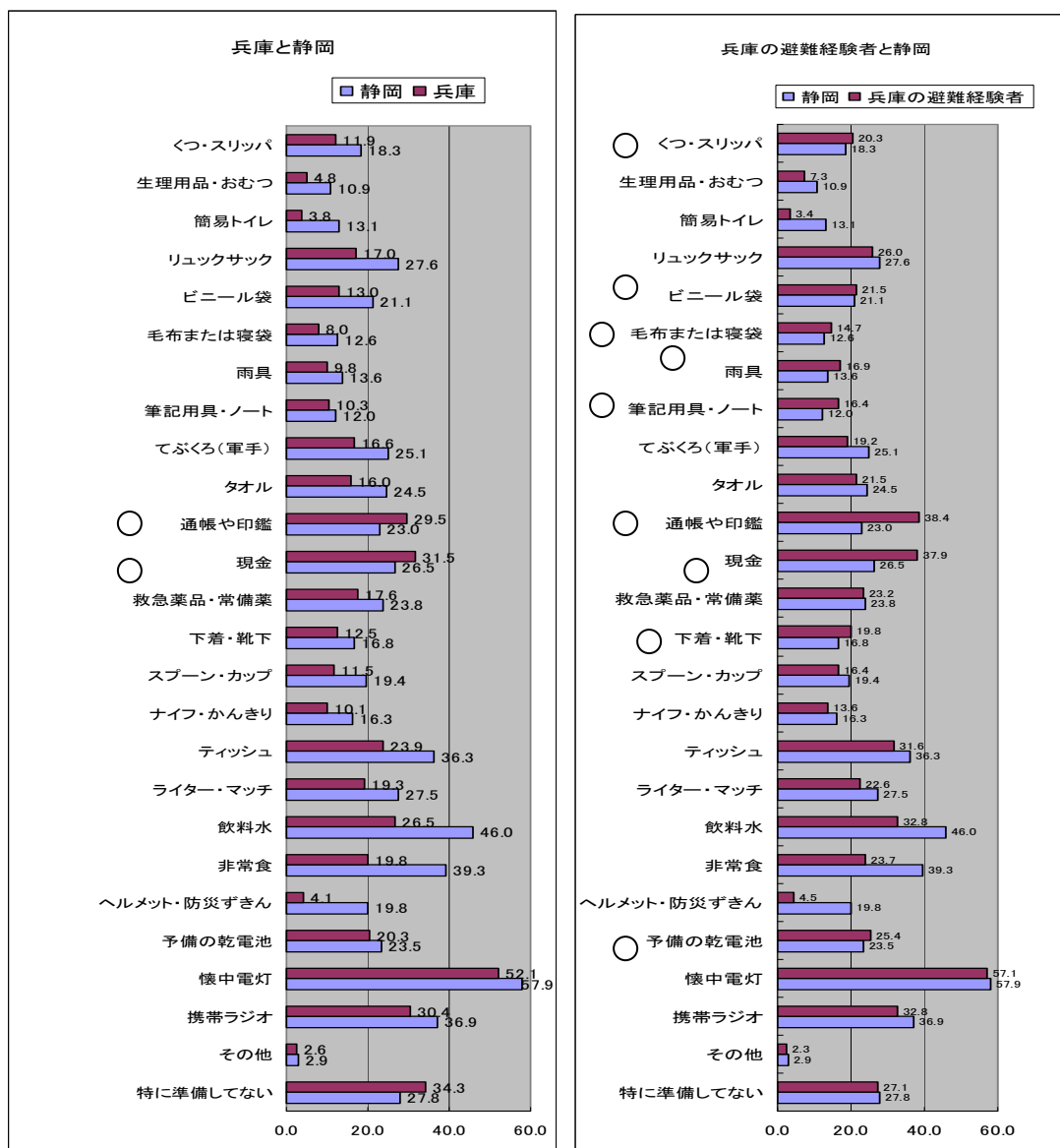
第3節 防災行動

1. 非常用持ち出し品の準備

～兵庫が準備率上回るのは「現金」「預金通帳」だけ～

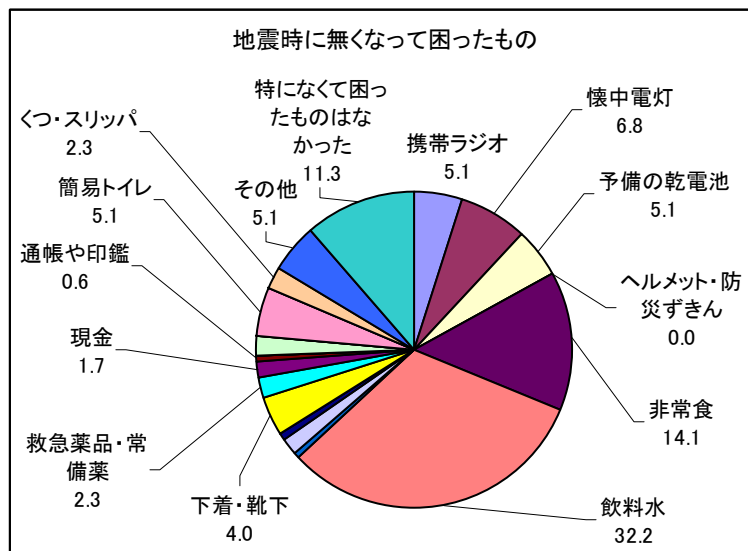
非常用持ち出し品の準備で、兵庫が静岡を上回ったのは「現金」「預金通帳や印鑑」の2項目だけで、残りの23項目はすべて静岡が高い。「特に準備していない」は兵庫34%で、静岡の28%を上回った。両県ともに「懐中電灯」が最も多く、2位以下は兵庫で「現金」「預金通帳や印鑑」の順。静岡は「飲料水」「非常食」「携帯ラジオ」と続いた。「ヘルメット・防災ずきん」「簡易トイレ」は静岡が3倍以上高い。

一方、兵庫の避難経験者と静岡を比べてみると、25項目のうち「毛布または寝袋」「乾電池」など9項目で静岡を上回った。さらに「現金」「預金通帳や印鑑」は際立って高く、静岡と10ポイント以上の差をつけた。



～「震災発生時に無くて困った物」上位は飲料水、非常食、しかし準備率は低く～

非常用持ち出し品 25 項目で、兵庫の避難経験者が「地震発生直後に無くて困った」品目は①「飲料水」②「非常食」と続いた。しかし、実際に準備している人（飲料水 27 %、非常食 20 %）は少なく、震災時の教訓が備えに結びついていない実態もうかがえた。



静岡市の久能小学校で撮影。静岡県内で常備されている「防災ずきん」。普段は座布団として用いられている。



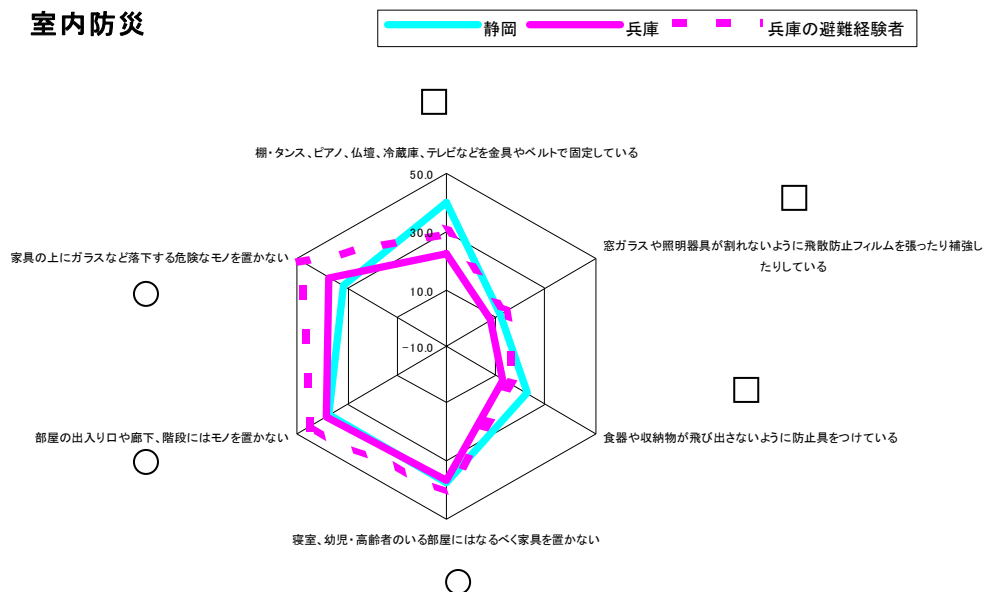
芦屋市の精道小学校で撮影。同小では毎年1月、6年生が阪神・淡路大震災について学び、後輩たちに伝える「語り継ぐ会」を開く。

2. 室内防災

～被災地に目立つ「置かない」

室内防災で、物を置かない対策は兵庫が静岡を上回り、特に兵庫の避難経験者では寝室や廊下、玄関に物を置かない割合が際立って高い。ただ、兵庫の7割の人が家具固定やガラスの飛散防止をしていない。(○は「置かない」□は「家具固定」の項目)

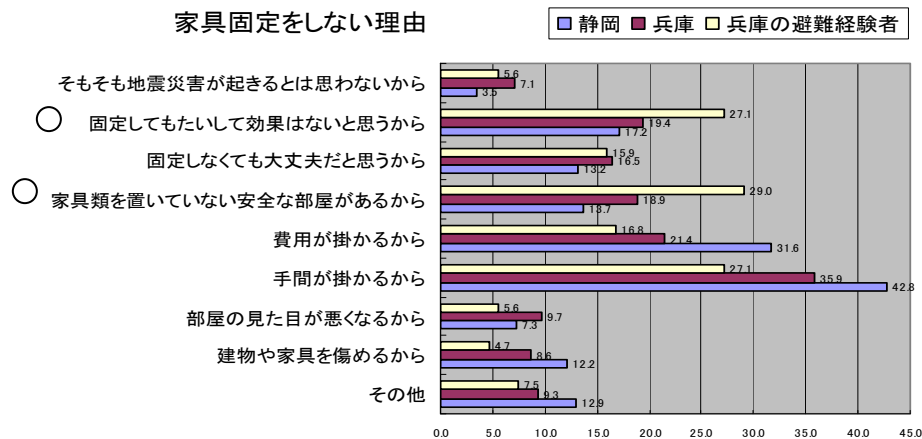
室内防災



～家具固定しない理由は「効果ない」「家具置かない部屋がある」～

家具を固定していない理由では、避難経験者のうち27%の人が「たいして効果がない」と考え、29%の人が「家具を置いていない部屋があるから」と答えた。一方、手間や費用を惜しむために固定しないという人は静岡に比べて低い。

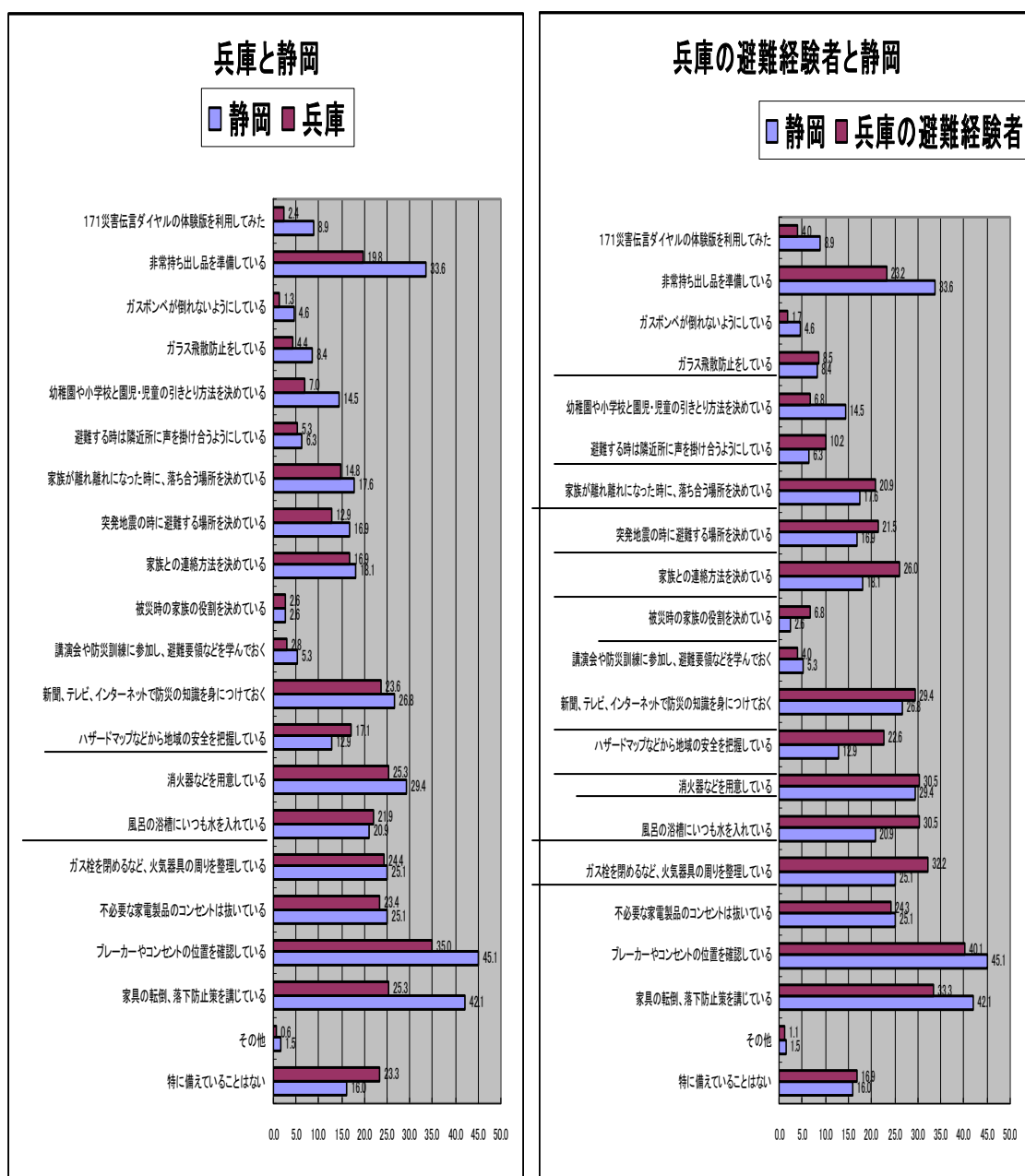
家具固定をしない理由



3. 日々の防災行動

～被災者の高い防災行動、被災地には広がらず～

日々の防災行動で兵庫は、ほとんどの項目で静岡よりも低い。「幼稚園や小学校で子どもの引き取り方法を決める」「災害伝言ダイヤルを体験した」はいずれも静岡に比べて低く、倍以上の差がついた。「特に備えていることはない」は兵庫が23%に上り、静岡の16%を上回った。ただし、兵庫の避難経験者でみると、火気への備え、家族との連絡方法、役割分担の決定、ハザードマップで居住地を確認—など11項目で静岡よりも高かった。兵庫の避難経験者にみられる、こうした意識の高い防災行動は兵庫の被災地全体には広がっていない実態もうかがえた。

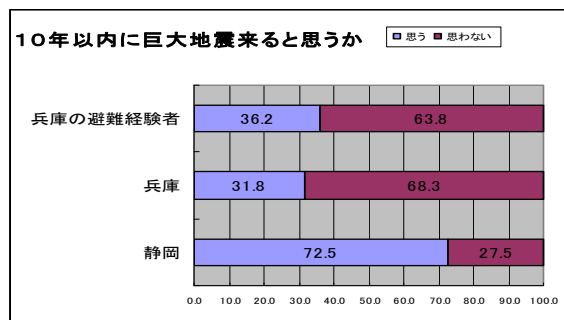


第4節 防災意識

1. 地震想定

～兵庫、「10年以内に大地震起きない」7割、根拠少ない安心感～

今後10年間に震度6強以上の巨大地震が地域で「起こらない」と考える人は兵庫で7割に上り、静岡では3割にとどまった。その理由として自由回答では「野島断層はもう動いたから」など根拠のないものや、「考えたくない」との回答が目立った。



巨大地震が起きないと思う主な理由は以下の通り。

兵庫

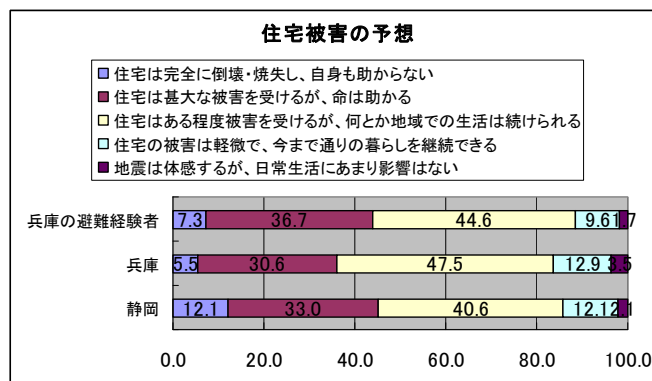
- ・阪神大震災が来たので、なんとなくだが、しばらくは来ないと思っている
- ・どこでも起こりうるとわかっていても、あんな災害を生涯で二度も経験するとは思えない
- ・南海地震では6強にはいかないだろうし、山崎断層はもう少し先のはず
- ・震災は特別で、もともと神戸に大きな断層はないはず
- ・実際分からない。震災のときもあんな大地震が来ると誰が思っていたか・・・

静岡

- ・東海地震が来ると言われ続け、おおかみ少年ではないが、このまま来ないと油断している
- ・小さい地震はよくあるのでエネルギーがたまっていないのではないか
- ・近代史において、この地域で巨大地震が起きていないから
- ・20代ころから地震が来ると大騒ぎをしているが、もう60代。死んでも悔いはない
- ・全く予期しない阪神・淡路や新潟中越ばかりで発生し、予測に疑問を感じている

～兵庫の避難経験者、44%が命の危険、甚大な住宅被害を予測～

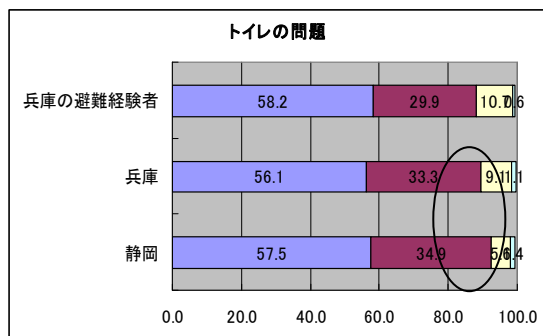
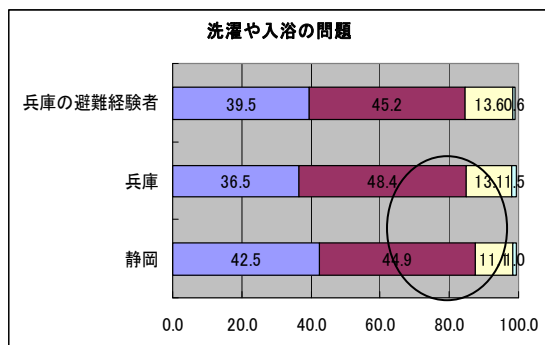
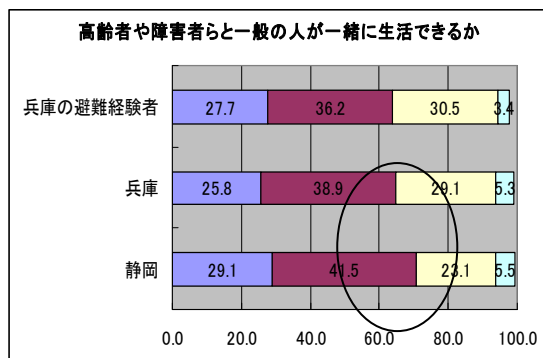
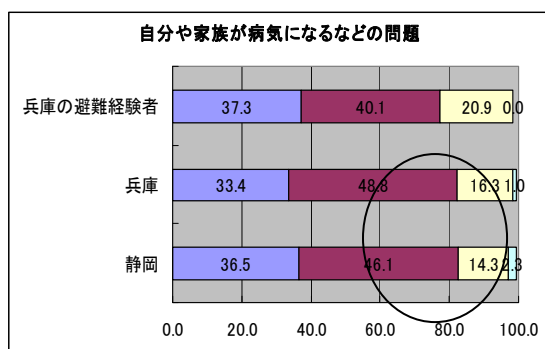
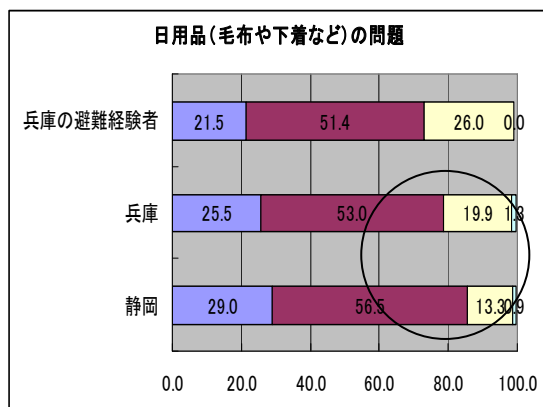
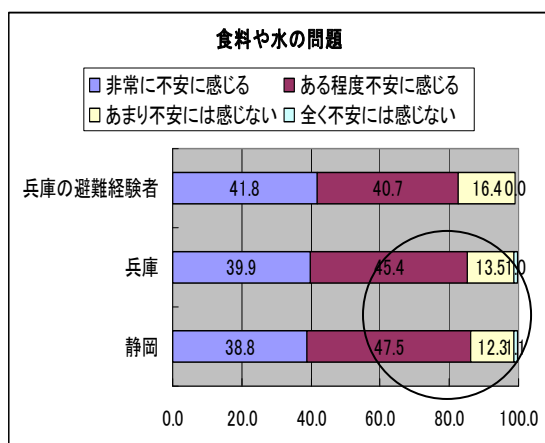
被害の予想では、「自分も助からない」「住宅にも甚大な被害を受ける」と考える人が45%で、兵庫の36%を上回った。しかし、兵庫の避難経験者も危機感は強く44%に上っている。

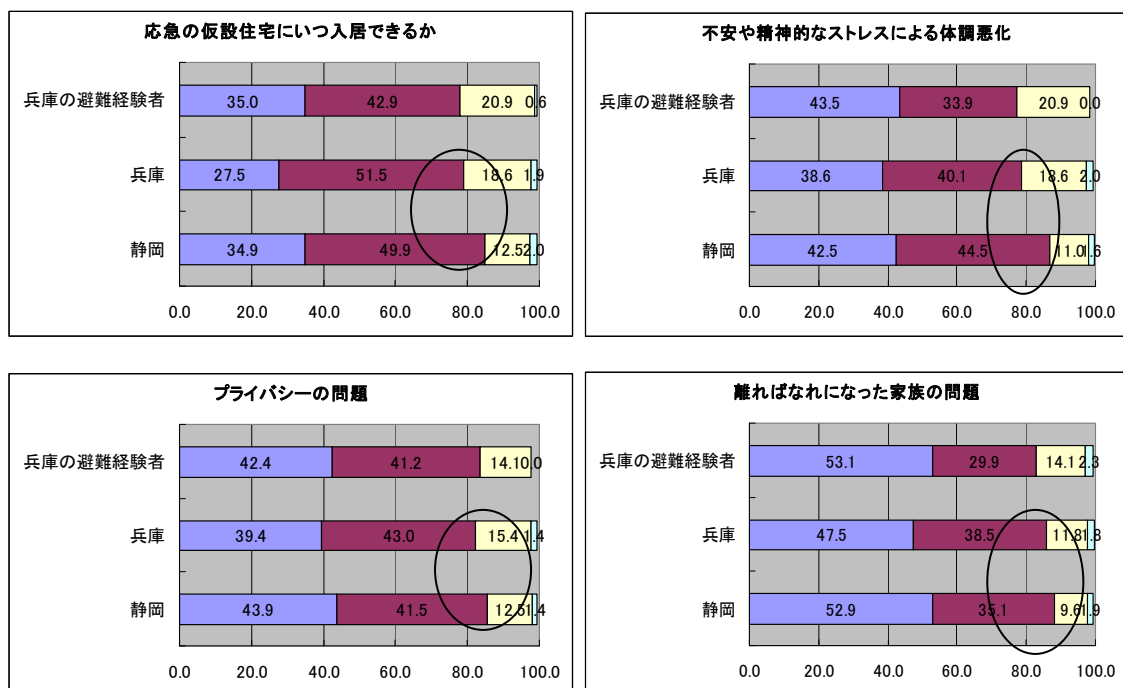


2. 避難生活の不安

～全項目で静岡の方に高い不安～

避難生活に関して生活上で不便や不安を感じる 11 項目を設けたところ、すべてで兵庫よりも静岡に高い不安感が見られた。最も高く示されたのは「トイレの問題」で、静岡の 92%、兵庫の 89% が「非常に不安」「ある程度不安」と回答。兵庫の避難経験者は全項目を通じ、総じて低かったが、そのうち「トイレ」は 88% と最も高かった。「障害者や乳幼児、高齢者と一般の人が一緒に生活できるか」で不安としたのは、静岡 71%、兵庫 65%。「応急の仮設住宅にいつ入居できるか」で不安としたのは静岡 85%、兵庫 79% だった。





～兵庫の避難経験者は“復興の道筋”に強い不安～

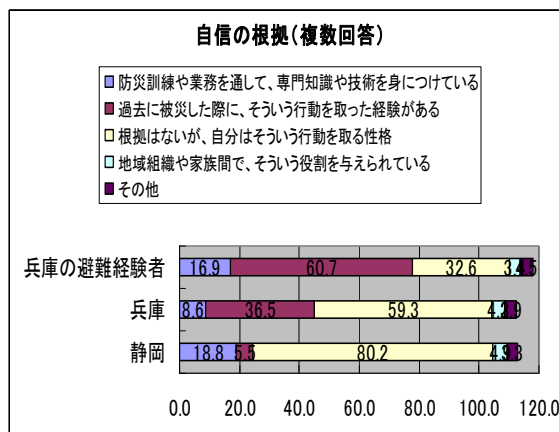
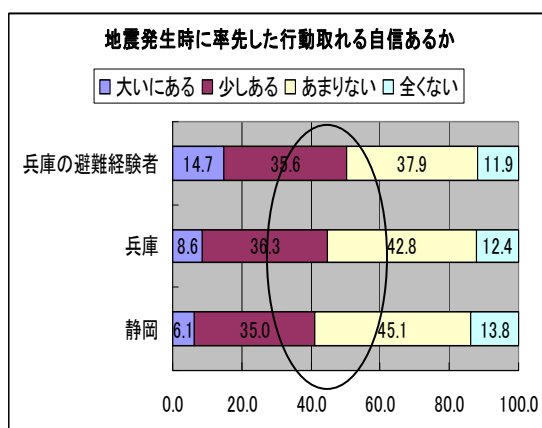
避難生活の不安についての自由回答では、兵庫の避難経験者から「避難生活後」に関する意見が非常に多く記され、実感として「今後どうなるか分からない」という復興への道筋に大きな不安があったことがうかがえた。今後の職や金銭上のやり繰りなどに思いを馳せるものが多く、非常用持ち出し品に「現金」「預金通帳や印鑑」が際立って多いことの要因になっているとも思われる。以下に主な意見を挙げる。

- (ア) 生活再建ができるかどうか
- (イ) 収入がなくなる可能性
- (ウ) 元の生活に戻るのにどれだけの時間と金がかかるか。
- (エ) 自宅の復旧にどれくらいの金がかかるか。どうやって復旧すればいいのか
- (オ) 何もかも無くなってこれからどうすればいいか
- (カ) 被災後の仕事の有無
- (キ) 会社や自宅が元の建物になるのはどうすればいいか
- (ク) 住宅ローンの支払いはどうなるのか
- (ケ) とにかく寄る辺のない気持ちをどうすればいいか
- (コ) 子どもを今の学校に通い続けさせることができるかどうか
- (サ) 持病の薬をどうやって確保するか
- (シ) 家に残っている大切なもの（思い出、お金や通帳、大事な書類）が無事かどうか
- (ス) 将来への漠然とした不安
- (セ) ライフラインはいつ復旧するか。二次被害は大丈夫か

3. 被災時の対応

～兵庫、率先した行動に自信45% 根拠は「震災時の経験」～

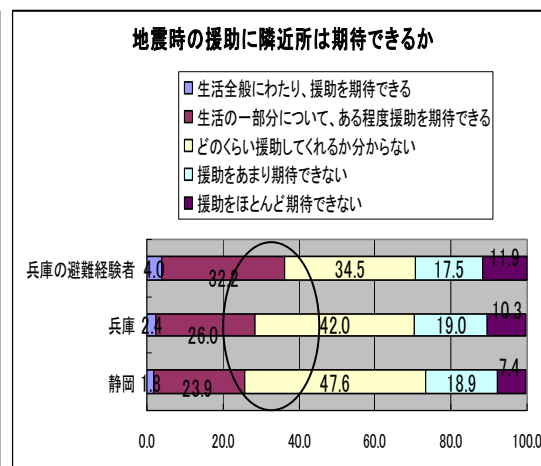
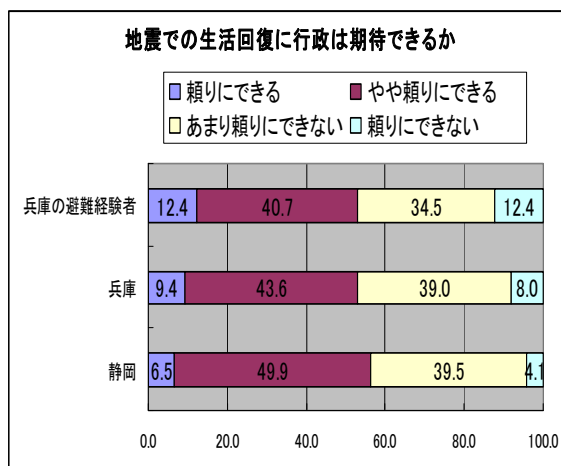
「地震発生時に率先した行動を取れるか」との質問には、兵庫県の45%が「大いに自信がある」「少し自信がある」と答えた。その理由としては、兵庫の4割弱が「過去にそういう行動を取ったことがあるから」とし、兵庫の避難経験者では6割に上った。静岡で自信があるとしたのは41%。「訓練や業務を通して技術を身につけている」が19%で兵庫を上回ったほか、自らの性格を挙げた人は8割に上った。



4. 救助や支援への期待

～「隣近所への期待」は兵庫の避難経験者ほど高い～

生活を回復する上で行政に期待する割合は両県、そして兵庫の避難経験者、いずれについても5割を超えた。隣近所に生活援助を期待する割合は兵庫のほうが高い。生活の全般・一部に援助が期待できるとした避難経験者は36%で、静岡の26%を上回った。救助活動を担う人や団体8項目から「最も頼りにする」対象を尋ねたところ、両県とも①家族②自衛隊③消防職員一の順だったが、兵庫の避難経験者ほど家族など「身近な人」に期待する割合が高かった。



生活上の不安

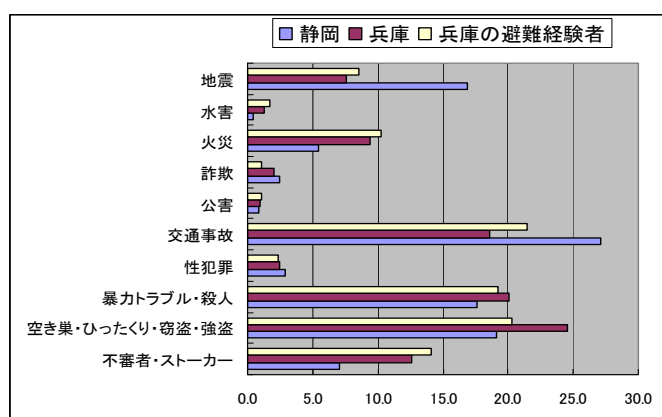
～地震よりも「犯罪」「事故」が不安、発生件数が反映？～

犯罪や災害の10項目から日常的に最も不安を感じる事象を尋ねたところ、静岡は①「交通事故」(27%) ②「空き巣・ひったくり・窃盗・強盗」(19%) ③「暴力トラブル・殺人」(18%) の順で、地震は4番目。一方、兵庫は犯罪への不安が一層高く、①「空き巣・ひったくり」(25%) ②「暴力トラブル・殺人」(20%) ③「交通事故」(19%) と続き、地震は8%で6番目だった。

日常生活で最も不安に感じる事象

静岡		兵庫	
①交通事故	27.1	①空き巣・ひったくり・窃盗・強盗	24.6
②空き巣・ひったくり・窃盗・強盗	19.1	②暴力トラブル・殺人	20.1
③暴力トラブル・殺人	17.6	③交通事故	18.6
④地震	16.9	④不審者・ストーカー	12.6
⑤不審者・ストーカー	7	⑤火災	9.4
⑥火災	5.4	⑥地震	7.6
⑦性犯罪	2.9	⑦性犯罪	2.5
⑧詐欺	2.5	⑧詐欺	2
⑨公害	0.9	⑨水害	1.3
⑩水害	0.4	⑩公害	1

地震は多くの命、財産を一瞬にして奪う。だが、さまざまなリスクに気を配らなければならない現代社会では、いつ起こるか分からない地震よりも、身近なトラブルに関心は向きがちといえる。ただし結果からは、市民は合理的なリスク判断をしているとの見方もできる。それは以下のグラフ、参考文献からもうかがえる。交通事故への不安が強い静岡はやはり交通事故の発生率が圧倒的に高く、犯罪への不安が強い神戸市は犯罪が多い。



市民は合理的なリスク判断をしている？

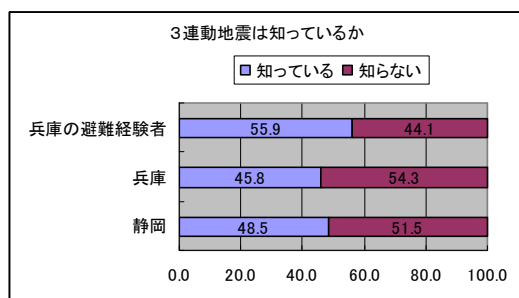
項目	神戸市		静岡市	
	件数	全国の市町別ランキング	件数	全国の市町別ランキング
交通事故発生件数(2008年)	9260	8位	1311	13位
1万人当たりの件数	60.35	451位	96.45	71位
刑法犯の認知件数(2008年)	28657	7位	84.73	35位
1万人当たりの件数	187.87	112位	120.89	479位
建物火災の出火件数(2009年)	358	6位	34	34位
1万人当たりの件数	2.35	947位	1.87	1254位

インターネットサイト「patmap 都市情報」より抜粋

第5節 3連動と予知

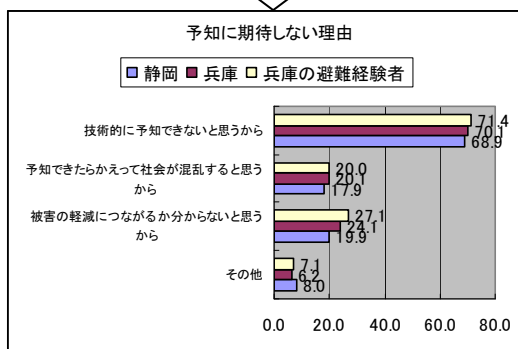
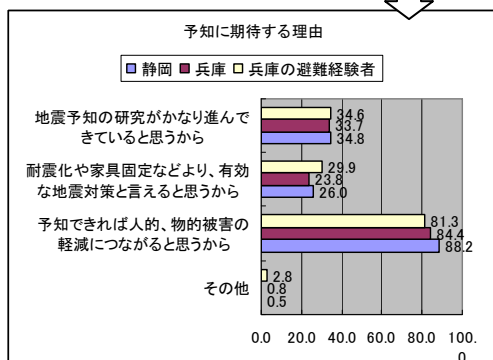
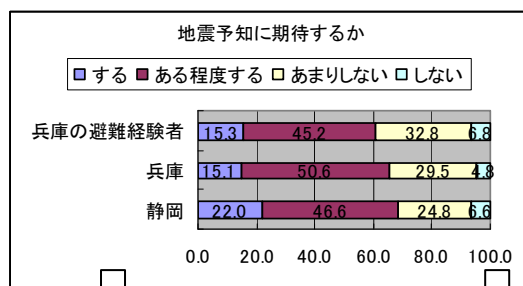
～「3連動知っている」兵庫で46%、静岡49%、うち各9割が「関心ある」～

東海地震と東南海、南海地震は連動する可能性が指摘されている。兵庫県は2010年度に見直した県内の震度予測で初めて3連動地震を採用し、連動した場合は県内で最大6強の揺れをもたらすとした。中央防災会議は2011年度から本格的な被害予測に着手するが、暫定値で死者は21府県で最大2万5000人とされる。アンケートでは3連動地震を「知っている」人は兵庫、静岡ともに半数近くに上り、兵庫の避難経験者は最も高い割合を示した。うち各約90%が「関心がある」と答えた。



～予知に期待、兵庫で66%、静岡69%、うち8割超が「予知できれば被害減る」～

東海地震は全国で唯一、予知できる可能性がある地震とされる。プレートがゆっくりとずれ始める「前兆すべり」が観測できた場合に限られるが、3連動地震への危険が高まる中で、予知への関心は高い。アンケートでは兵庫の66%、静岡の69%が「予知に期待する」と回答。その理由では各80%超が「人的、物的被害の軽減につながる」とした。期待しない理由では、各約7割が「技術的に無理」などとあきらめ感を抱いていた。

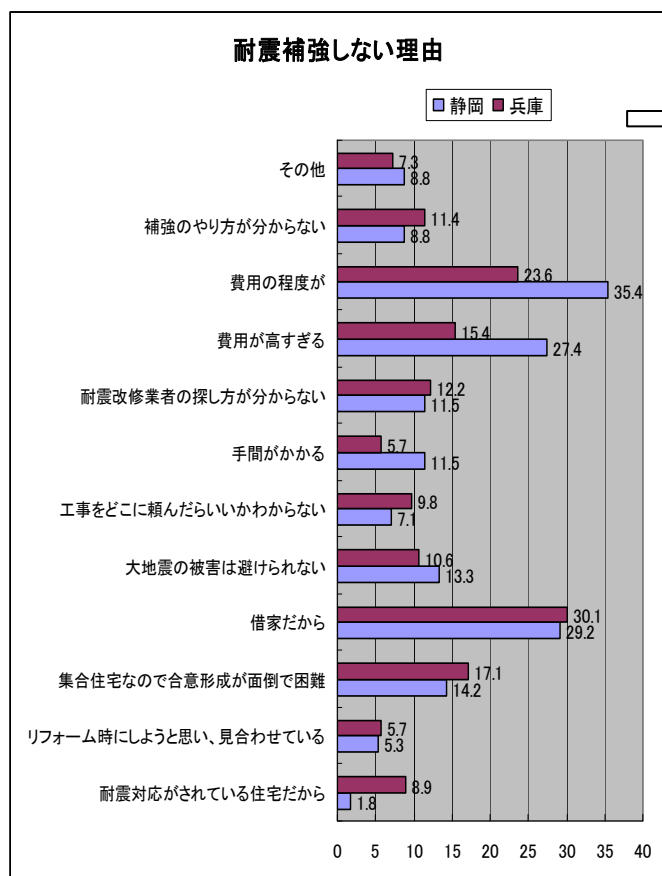
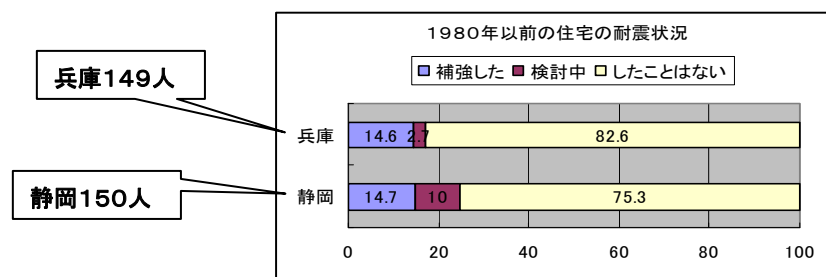


第6節 耐震化しない人々の心理

～補強を阻む要因は借家、集合住宅、費用、そして“漠然”とした安心感～

震度6強以上の地震で倒壊の恐れがある住宅は、兵庫県内で約38万戸とされる。県内の戸建てやマンションなどの住宅耐震化率は2008年時点で82.4%。阪神・淡路大震災で約25万棟が全半壊し、改築や改修が進んだことなどもあり、全国比較で上位から4番目の高さとなっている。

補強が必要なのは、1981年6月までに建てられた旧耐震基準の住宅とされる。アンケートで、1980年以前の住宅で暮らす兵庫県民は149人で、そのうち8割強が耐震補強をしていなかった。理由としては「震災でも耐えたから」などと漠然とした安心感を抱いている人が目立ったほか、集合住宅での合意形成の困難さなどが耐震化を阻んでいることが分かった。



その他の意見

【兵庫】

- ・阪神・淡路大震災でももちこたえた
- ・本当に耐えられるか信用できない
- ・もう巨大地震は来ないのでは

【静岡】

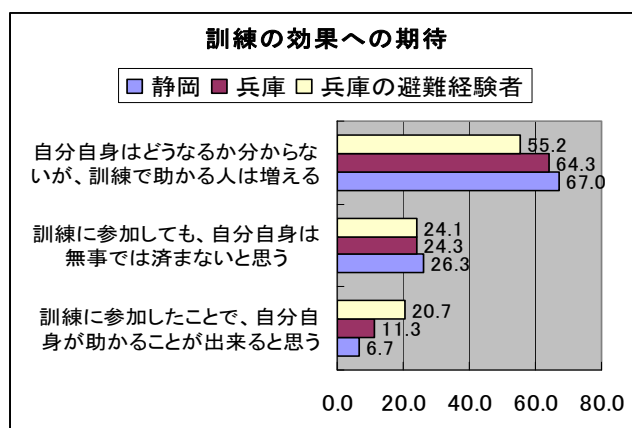
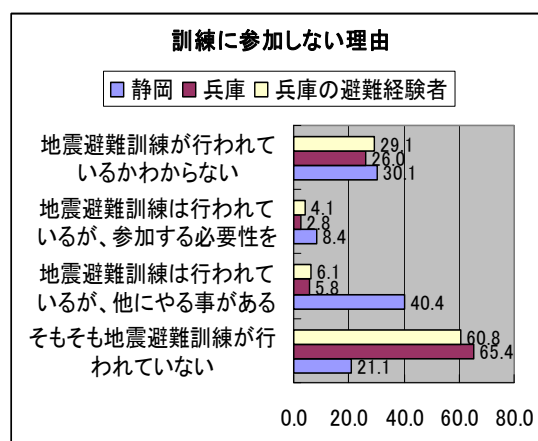
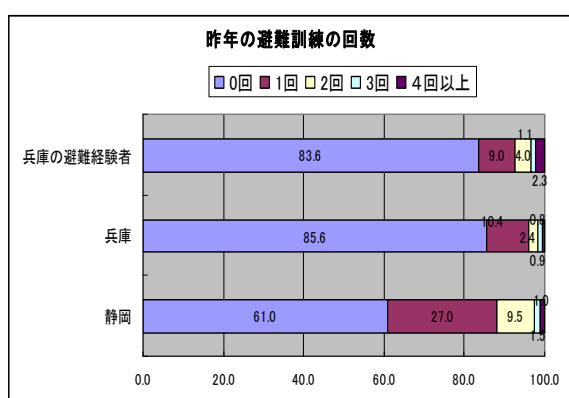
- ・いつかしようと思っているがまだできて
- ・家族が考えていないから
- ・今やれば自費だが、地震後に再建すれば補助が出る

第7節 避難訓練と自主防災組織

～避難訓練、兵庫で「昨年参加ゼロ」は86%、参加しても24%が「無事では済まない」～

地震に備える避難訓練に昨年1年間、1度も参加していない兵庫の人は8割に上った。理由は「そもそも訓練がない」が65%。訓練が行われているか分からない」が26%と続いた。静岡は「0回」が61%。ただし、うち約半数が「他にやることがある」「参加の必要性を感じない」とし、訓練があることは認識していた。

ただし、訓練に参加して「自分が助かる」と考えている人は静岡7%、兵庫11%しかおらず、兵庫の避難経験者が21%で、最も訓練の効果に期待していることが分かった。



その理由

避難訓練で自分は助かる	避難訓練をしても助からない	自分は分からないが、訓練で助かる人は増える
・震災のとき実際に役に立った	・震災のときに避難路の階段がつぶれた。訓練通りにはいかない	・救助の仕方など実践の自信はないが、だれかはできると思う
・避難時の注意点を知らただけでも助かる確率は増える	・震災の時に揺れの中で行動するのは不可能だった	・地震の知識を持つ人が多い方が、助け合える
・参加者たちの真剣さを感じた	・訓練のための訓練になっている	・パニックは減らせる
・地域の人たちと顔見知りになっているから助け合える	・訓練に津波が入っていないから	・何も知らないよりはまし

～兵庫、自主防災組織「入っている」8%、啓発活動は静岡を上回る～

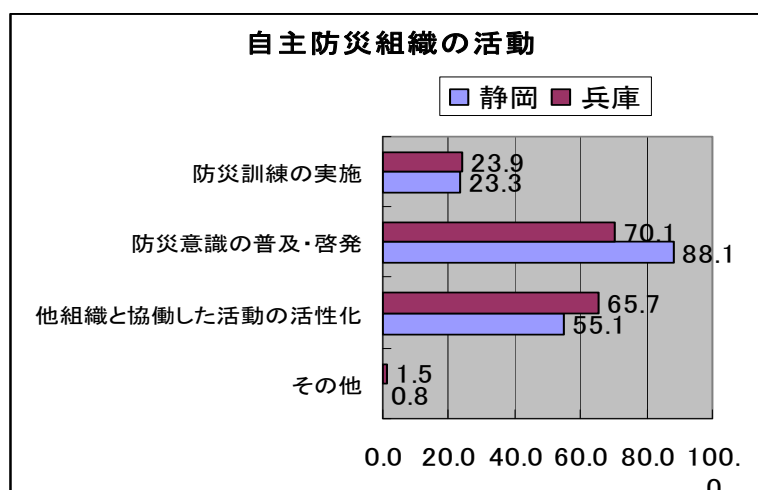
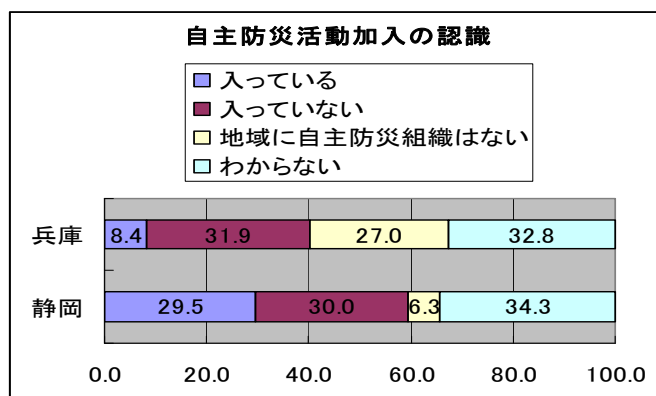
地域で訓練などを実施する「自主防災組織」について尋ねた。兵庫県は世帯組織率を9割超としているが、「組織に入っている」と答えた人は8%で、6割超が「地域にはない」「わからない」と答えるなど、自らが「隊員」と認識していない住民が多い。組織率が100%近いとしている静岡も「入っている」は30%足らずで、両県とも県民の意識と大きなずれがみられた。

同組織は災害対策基本法に基づく地域組織で、阪神・淡路大震災を機に全国で結成が進んだ。自治会などが市町に申請すると全世帯が「隊員」に登録され、活動内容を把握することが求められる。活動内容では、兵庫の70%が「防災訓練」を挙げ、静岡に比べて18ポイント低かったが、「防災意識の普及・啓発」は静岡を11ポイント上回る66%だった。

自主防災組織率

(2010年4月時点)

兵庫県	95.9%
静岡県	99.9%



第2章 まとめと提言

これまでのデータから予想通り、静岡の方が兵庫の被災地よりも地震への危機感が総じて高く、日常的な備えも全体的に充実していることが分かった。東海地震への切迫感が影響しているほか、兵庫の被災地も震災から15年が過ぎて危機意識が薄れている可能性がある。しかし、日々の備えで兵庫が静岡を上回った内容は少ない。家具の固定や耐震化に取り組んでいない人は多かったが、「手間」や「費用」を理由にする割合は静岡に比べて低く、大半の人が震災を根拠に何らかの考え方を示していた。以下、被災地の防災意識と課題を考えてみたい。

第1節 震災を生かそうとする意識

1、できるだけ置かない ～家具そのものが危険～

調査で「家具固定」をしている割合は静岡に比べて低かったが、部屋の出入り口や寝室にモノを置かない人々の割合は兵庫、さらに避難経験者ほど高い。震災の犠牲者は、8割超が倒壊した建物や家具の下敷きになったことが原因とされ、命を落とさないまでも、転倒した家具で負傷したり、家具が障害になって脱出が困難になったりした人も相当数出た。被災地では「命を捨てるならモノ捨てろ」との言葉をよく聞くが、「家具を置く危険性」を意識することは、被災者ほど身にしみた教訓として被災地に広まっていると考えられる。

2、最後の頼りは身近な人 ～地域の「共助」に期待～

震災では生き埋めになった約3万5000人のうち、8割近くが隣人らに救出された。消防や警察の手が回らず、「隣人たちで助けるしかなかった」というのが実態だが、これを反映するように、兵庫、さらに避難経験者ほど地震時の援助を隣近所に期待する割合が高く、「救助活動に最も期待する対象」も避難経験者ほど身近な人に高い割合を示した。「地域の助け合い」は震災の教訓として一定の広がりをもっているようだ。

3、やっぱり財産 ～復興は経済力～

非常用持ち出し品では、兵庫、さらに避難経験者ほど「現金」「預金通帳や印鑑」の準備率が際立って高い結果となった。逆に、兵庫の人々が準備率で上回っているのは、この2項目しかなかった。理由はさまざま考えられる。「震災の被害は局地的で、避難生活中でも現金があれば買い物ができたから」「自宅周辺の治安が心配だから」「単に関西人だから」との見方もできる。それでも地震後の不安に注目すると、避難生活への不安内容は全項目にわたって静岡の人々に高い割合で示され、そのことが静岡の細々とした準備に反映しているとも考えられる。一方、兵庫の人々の不安内容は「今後の収入」「生活再建」など“避難生活後の生活”に向けたものが非常に多く記され、関心は「復興の道筋」に向いている

ことがうかがえた。そう考えると、兵庫の人々が現金や通帳を意識するのは、単に「関西人だから」などという訳ではなさそうだ。復興過程で被災者は、経済弱者ほど住居などの選択肢が狭められ、経済力がその後の生活を大きく左右した現実がある。「最終的に頼りになるのは、やはり財産」。そう考えるのは、むしろ被災者らの切実な思いに違いない。

第2節 震災の記憶を継承することの課題

1、震災のイメージを固定化⇒あらゆる想定を

震災は午前5時46分に“突然”発生し、頑丈と信じていた家屋が予期せぬ大揺れで崩れたり、気づいた瞬間に生き埋めになったりした人が多かった。そのためか、被災地には耐震化や家具固定を「たいして効果がない」と決め付けたり、避難訓練をしても「どうせ身動きする時間がない」と考えたりする人が多くいた。だが、現実には場所によって揺れの程度は異なり、耐震化や家具固定、避難訓練で救われた命もある。

非常用持ち出し品でも、多くの避難経験者が「最も無くて困ったもの」に飲料水、非常食を挙げたが、実際の準備率は低かった。「震災の時は事前に準備していなくても、全国から支援物資が寄せられ、深刻な事態には至らなかったから」との意見がある。しかし、これから地震が起きた場合、自宅に閉じこめられたり、避難所が不足して自宅で暮らさざるを得なかったりする事態も考えられる。地震発生時に自宅にいるとも限らない。あらゆる想定をして対策を取ることが大切だ。

2、根拠ない安心感⇒正しい認識と知識を

調査では、耐震化が必要な住宅なのに「震災を耐えたから補強しなくても大丈夫」と考えたり、巨大地震が起きる可能性がないとは言い切れないのに「阪神・淡路が起きたからしばらく地震はない」と信じたりと、「根拠のない安心感」を基に防災行動を取らない人が多く見受けられた。ほかにも「山崎断層の発生確率は低いから大丈夫」などと行政や研究者の予測に過剰な安心感を抱いて日々の備えをしない人も一定数いた。しかし東日本大震災にみるように、自然災害はそうした予測を上回る規模や時期で起こる可能性もある。正しい認識と知識が欠かせない。

3、被災者の教訓が広がらない⇒知る、知らせる努力を

日々の防災行動は、兵庫の避難経験者に限定すれば静岡を上回る項目が多かったが、兵庫の被災地として見た場合は総じて静岡を下回っており、「避難経験者」と「被災地で暮らす人々」の防災意識には格差がうかがえた。「震災を風化させない」は被災地のテーマだが、被災者の高い防災行動が被災地に広がっているとは言い難い。被災者が身にしみた教訓を

伝えるには過去を振り返る必要があるため、その精神的負担が「壁」になっている可能性もある。被災地内外で暮らす人々は、そうした被災者らの心情の理解に努めるとともに「なぜそのような行動を取るのか」を考え、伝えていくことが必要だろう。

第3節 提言

「震災の教訓を生かす、記憶をつなぐ」には正負の側面が必要

これまで見たように、細かい物品をそろえ、万事に備える静岡に対し、兵庫の被災地は地震の「経験」「記憶の継承」に基づき、防災行動に選択と集中を図ろうとする意識がうかがえた。そこには危機感を持つだけでは身につけにくい「教訓」がみられる一方で、震災を意識することで、あえて対策を軽視するような「思いこみ」と見受けられる内容も目立った。防災を考えるとときに震災の記憶をつなぐだけでは不十分で、「人々が震災からどのような防災を考えるか」をきちんと検証することが欠かせない。

「生活上のリスク」に見るように、住民たちは様々なリスクに囲まれる中、事故や事件の発生件数など何らかの「指標」を基に、リスクを順位分けして暮らしている。そう考えると、兵庫の人々が地震に向ける危機意識の順位は犯罪や事故に比べて低いが、やはり住民は何らかの指標を基に合理的なリスク判断をしていると思われる。行政は、住民がどのような危機感を持ち、それが何に起因するのかを把握する必要があるだろう。

ただし、強い危機感を持つことが正しい防災行動を生むとは限らない。2011年3月には東日本大震災が発生し、全国的に防災グッズの売り上げが伸びている。確かにモノをそろえて準備することは大切だが、調査で得られた被災地の行動は、「それだけで大丈夫か」と私たちに再考をうながしてくれる内容も多い。過剰な危機感は一時的な対策に走りかねず、「持たないことの意味」「地域の共助」「復興を見据えた意識」などは被災地の教訓として発信していくべきだ。

地震後に生活を回復する上で自治体に「期待する」と答えた人は兵庫、静岡両県ともに5割を超え、住民たちは災害時に頼る先として行政に注目している。行政はむやみに危機感をあおろうとするのではなく、有事への備え、対応方法を住民らと冷静に議論していくことが求められる。

調査名:

巨大地震災害に関する市民意識調査

調査範囲:神戸市(750 人)、淡路島(50 人)、静岡市(400 人)、浜松市(400 人)

調査対象:20 歳以上の男女

Q1 あなたの住宅についてお伺いします。

Q1-1)あなたのお住まいの家は以下のどれに当たりますか。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1600	800	800	0	177
木造住宅	43.4	53.3	33.6	0.0	27.7
鉄骨造住宅	17.1	18.6	15.6	0.0	19.2
鉄筋コンクリート造住宅	38.4	27.3	49.5	0.0	52.0
その他	1.1	0.9	1.3	0.0	1.1

その他「コンテナハウス」「プレハブ小屋」など。

Q1-2)その住宅の築年数は何年ですか。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1600	800	800	0	177
15年以内(震災後)	51.2	56.4	46.0	0.0	47.5
16~29年以内(耐震基準変更後)	29.7	24.6	34.8	0.0	28.2
30年以上前	18.7	18.8	18.6	0.0	23.7

Q1-3)今までに耐震診断をした事がありますか。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1600	800	800	0	177
ある	15.1	12.0	18.1	0.0	27.7
検討中	3.6	2.8	4.5	0.0	6.2
ない	81.3	85.3	77.4	0.0	66.1

Q1-3)SQ1

(3)で1. 耐震診断をしたとお答えの方へ)その結果はどうでしたか。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	241	96	145	0	49
補強が必要	21.6	26.0	18.6	0.0	28.6
補強は不要	77.6	71.9	81.4	0.0	71.4

Q1-3)SQ2. (3)で3. 耐震診断をしたことがないとお答えの方へ)その理由について以下から該当するもの全てをお選びください。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1301	682	619	0	117
そもそも大地震に遭遇することはない	0.8	0.6	1.0	0.0	0.0
大規模地震に遭遇しても甚大な被害には至らない	5.8	5.3	6.3	0.0	1.7
今の住居に今後も長く住むとは限らない	12.0	13.8	10.0	0.0	6.8
安全な住居への住み替えを考えているから	1.8	2.3	1.3	0.0	1.7
住居は老朽化しており、立て替えた方が良いうから	5.4	6.6	4.0	0.0	3.4
耐震改修しても地震の被害を免れることは難しいから	10.1	11.7	8.2	0.0	5.1
耐震改修しても地震が発生しないと無駄になってしまう	3.4	2.6	4.2	0.0	1.7
地震保険に加入しており、被災しても住宅再建は可能	6.8	7.0	6.5	0.0	6.8
診断方法がわからないから	11.1	11.1	11.1	0.0	11.1
診断に掛ける費用があるなら、別の事に使いたい	10.1	10.0	10.3	0.0	11.1
借家だから	27.7	29.5	25.7	0.0	24.8
耐震対応がされている住宅だから	31.4	33.0	29.6	0.0	35.0
その他	11.3	9.1	13.7	0.0	15.4

その他「阪神・淡路大震災で耐えたから」「親にその気がない」「補強しなくても大丈夫そうだから」「大丈夫と確信しているから」など。

Q1-4) あなたはご自身の住宅を耐震補強した事がありますか。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1600	800	800	0	177
したことがある	7.8	7.4	8.1	0.0	16.9
検討中	2.7	2.9	2.5	0.0	2.3
したことはない	89.6	89.8	89.4	0.0	80.8

Q1-4) SQ1 (3)で耐震診断を1. したことがある、とお答えの方のうち、4)で耐震補強を1. したことがある、2. 検討中とお答えの方へ)耐震補強をした、あるいは耐震補強を検討し始めたのは耐震診断をする前ですか、耐震診断をした後ですか。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	75	34	41	0	17
耐震診断をする前に耐震補強を(検討)した	33.3	38.2	29.3	0.0	29.4
耐震診断後に耐震補強を(検討)した	66.7	61.8	70.7	0.0	70.6

Q1-4) SQ2 (3. したことはない、とお答えの方へ)耐震補強をしたことがない理由について以下から該当するもの全てをお選びください。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1433	718	715	0	143
補強のやり方がわからないから	8.0	7.4	8.7	0.0	5.6
どの程度費用が掛かるかわからないから	18.4	18.1	18.6	0.0	17.5
想定される費用が高すぎるから	10.1	12.1	8.1	0.0	8.4
どうやって信頼できる耐震改修業者を探しているのか分からないから	8.8	9.2	8.4	0.0	6.3
手間がかかるから	8.2	7.8	8.7	0.0	6.3
工事をどこに頼んだら良いか分からないから	6.5	6.5	6.4	0.0	4.9
補強しても大地震の被害は避けられないから	7.5	7.8	7.1	0.0	5.6
借家だから	25.7	27.7	23.6	0.0	21.7
集合住宅なので、他の住民との合意形成が面倒で困難だと思うから	17.2	14.1	20.4	0.0	19.6
将来リフォーム時にしようと、今のところは見合わせている	3.4	2.6	4.2	0.0	5.6
耐震対応がされている住宅だから	33.1	35.9	30.3	0.0	32.9
その他	5.4	5.0	5.9	0.0	7.7

その他「阪神・淡路大震災で耐えたから」「地震で壊れてからしたら補助が出るから」「親にその気がない」「そもそももう地震はこない」「地震がきて本当に大丈夫か信用できない」など。

Q2 地震災害時の準備についてお伺いします。

Q2-1)非常持ち出し品として、いつでも持ちだせる準備ができているものは何ですか。以下の中で用意しているもの全てをお選びください。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1600	800	800	0	177
携帯ラジオ	33.6	36.9	30.4	0.0	32.8
懐中電灯	55.0	57.9	52.1	0.0	57.1
予備の乾電池	21.9	23.5	20.3	0.0	25.4
ヘルメット・防災ずきん	11.9	19.8	4.1	0.0	4.5
非常食	29.5	39.3	19.8	0.0	23.7
飲料水	36.3	46.0	26.5	0.0	32.8
ライター・マッチ	23.4	27.5	19.3	0.0	22.6
ティッシュペーパー	30.1	36.3	23.9	0.0	31.6
ナイフ・かんきり	13.2	16.3	10.1	0.0	13.6
スプーン・はし・カップ	15.4	19.4	11.5	0.0	16.4
下着・靴下	14.6	16.8	12.5	0.0	19.8
救急薬品・常備薬	20.7	23.8	17.6	0.0	23.2
現金	29.0	26.5	31.5	0.0	37.9
通帳や印鑑	26.3	23.0	29.5	0.0	38.4
タオル	20.3	24.5	16.0	0.0	21.5
てぶくろ(軍手)	20.9	25.1	16.6	0.0	19.2
筆記用具・ノート	11.1	12.0	10.3	0.0	16.4
雨具	11.7	13.6	9.8	0.0	16.9
毛布または寝袋	10.3	12.6	8.0	0.0	14.7
ビニール袋	17.1	21.1	13.0	0.0	21.5
リュックサック	22.3	27.6	17.0	0.0	26.0
簡易トイレ	8.4	13.1	3.8	0.0	3.4
生理用品・おむつ	7.8	10.9	4.8	0.0	7.3
くつ・スリッパ	15.1	18.3	11.9	0.0	20.3
その他	2.8	2.9	2.6	0.0	2.3
特に準備しているものはない	31.0	27.8	34.3	0.0	27.1

その他「個人情報入りの笛」「ガスコンロ」「簡易テント」「サランラップ」「10円コイン」など。

地震災害後、小学校などで避難所生活を送らざるをえなくなったときの不安についてお伺いします。

Q2-2)避難生活において、以下の問題はどの程度不安に感じますか。それぞれひとつずつお選び下さい。

【A）食料や水の問題】					
表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1600	800	800	0	177
非常に不安に感じる	39.3	38.8	39.9	0.0	41.8
ある程度不安に感じる	46.4	47.5	45.4	0.0	40.7
あまり不安には感じない	12.9	12.3	13.5	0.0	16.4
全く不安には感じない	1.1	1.1	1.0	0.0	0.0
【B）日用品（毛布や下着など）の問題】					
回答者数	1600	800	800	0	177
非常に不安に感じる	27.3	29.0	25.5	0.0	21.5
ある程度不安に感じる	54.8	56.5	53.0	0.0	51.4
あまり不安には感じない	16.6	13.3	19.9	0.0	26.0
全く不安には感じない	1.1	0.9	1.3	0.0	0.0
【C）自分や家族が病気になるなどの医療問題】					
回答者数	1600	800	800	0	177
非常に不安に感じる	34.9	36.5	33.4	0.0	37.3
ある程度不安に感じる	47.4	46.1	48.8	0.0	40.1
あまり不安には感じない	15.3	14.3	16.3	0.0	20.9
全く不安には感じない	1.6	2.3	1.0	0.0	0.0
【D）乳幼児、高齢者、体の不自由な者が一般の人と一緒に生活できるか】					
回答者数	1600	800	800	0	177
非常に不安に感じる	27.4	29.1	25.8	0.0	27.7
ある程度不安に感じる	40.2	41.5	38.9	0.0	36.2
あまり不安には感じない	26.1	23.1	29.1	0.0	30.5
全く不安には感じない	5.4	5.5	5.3	0.0	3.4
【E）洗濯や入浴の問題】					
回答者数	1600	800	800	0	177
非常に不安に感じる	39.5	42.5	36.5	0.0	39.5
ある程度不安に感じる	46.6	44.9	48.4	0.0	45.2
あまり不安には感じない	12.1	11.1	13.1	0.0	13.6
全く不安には感じない	1.3	1.0	1.5	0.0	0.6
【F）トイレの問題】					
回答者数	1600	800	800	0	177
非常に不安に感じる	56.8	57.5	56.1	0.0	58.2
ある程度不安に感じる	34.1	34.9	33.3	0.0	29.9
あまり不安には感じない	7.4	5.6	9.1	0.0	10.7
全く不安には感じない	1.3	1.4	1.1	0.0	0.6
【G）応急の仮設住宅にいつ入居できるか】					
回答者数	1600	800	800	0	177
非常に不安に感じる	31.2	34.9	27.5	0.0	35.0
ある程度不安に感じる	50.7	49.9	51.5	0.0	42.9
あまり不安には感じない	15.6	12.5	18.6	0.0	20.9
全く不安には感じない	1.9	2.0	1.9	0.0	0.6
【H）不安や精神的なストレスによる体調悪化】					
回答者数	1600	800	800	0	177
非常に不安に感じる	40.6	42.5	38.6	0.0	43.5
ある程度不安に感じる	42.3	44.5	40.1	0.0	33.9
あまり不安には感じない	14.8	11.0	18.6	0.0	20.9
全く不安には感じない	1.8	1.6	2.0	0.0	0.0
【I）プライバシーの問題】					
回答者数	1600	800	800	0	177
非常に不安に感じる	41.6	43.9	39.4	0.0	42.4
ある程度不安に感じる	42.3	41.5	43.0	0.0	41.2
あまり不安には感じない	13.9	12.5	15.4	0.0	14.1
全く不安には感じない	1.4	1.4	1.4	0.0	0.0
【J）離れ離れになった親戚や家族の安否】					
回答者数	1600	800	800	0	177
非常に不安に感じる	50.2	52.9	47.5	0.0	53.1
ある程度不安に感じる	36.8	35.1	38.5	0.0	29.9
あまり不安には感じない	10.7	9.6	11.8	0.0	14.1
全く不安には感じない	1.8	1.9	1.8	0.0	2.3
【K）ペット問題】					
回答者数	1600	800	800	0	177
非常に不安に感じる	14.9	17.0	12.8	0.0	15.8
ある程度不安に感じる	13.3	12.3	14.4	0.0	13.6
あまり不安には感じない	16.6	16.9	16.4	0.0	19.2
全く不安には感じない	54.4	53.4	55.5	0.0	49.2

Q2-3)

上記 A～K 以外で、その他不安に感じるものはありますか。

「想像できない」「パニックにならないかどうか」「すぐに思いつかない」「悪臭など」「連絡手段」「仕事ができるか」「阪神・淡路で体験しているから特にない」「避難場所の格差」「持病の薬」「いつ生活再建できるか」「いつ元の生活に戻れるか」など。

Q2-4)過去に地震災害により被災した経験がありますか。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1600	800	800	0	177
はい	39.5	5.8	73.3	0.0	100.0
いいえ	60.5	94.3	26.8	0.0	0.0

Q2-4)SQ1

(4)で1. はいとお答えの方へ)どの程度の住宅被害でしたか。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	632	46	586	0	177
全壊	10.1	2.2	10.8	0.0	31.6
半壊	18.0	6.5	18.9	0.0	31.6
一部損壊	45.7	26.1	47.3	0.0	31.1
それ以外	26.1	65.2	23.0	0.0	5.6

Q2-4)SQ2

(4)で1. はいとお答えの方へ)地震による避難生活を経験したことがありますか。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	632	46	586	0	177
ある	28.5	6.5	30.2	0.0	100.0
ない	71.5	93.5	69.8	0.0	0.0

Q2-4)SQ3

Q2-4)SQ2で1. あるとお答えの方へ)

以下の中で、地震発生直後に無くて困った物のうち、特に困った物上位3つについてお答え下さい。

【1位:】	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
表側					
回答者数	180	3	177	0	177
携帯ラジオ	5.6	33.3	5.1	0.0	5.1
懐中電灯	6.7	0.0	6.8	0.0	6.8
予備の乾電池	5.0	0.0	5.1	0.0	5.1
ヘルメット・防災ずきん	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
非常食	13.9	0.0	14.1	0.0	14.1
飲料水	32.2	33.3	32.2	0.0	32.2
ライター・マッチ	0.6	0.0	0.6	0.0	0.6
ティッシュペーパー	1.7	0.0	1.7	0.0	1.7
ナイフ・かんきり	0.6	0.0	0.6	0.0	0.6
スプーン・はし・カップ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
下着・靴下	3.9	0.0	4.0	0.0	4.0
救急薬品・常備薬	2.2	0.0	2.3	0.0	2.3
現金	2.2	33.3	1.7	0.0	1.7
通帳や印鑑	0.6	0.0	0.6	0.0	0.6
タオル	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
てぶくろ(軍手)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
筆記用具・ノート	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
雨具	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
毛布または寝袋	1.7	0.0	1.7	0.0	1.7
ビニール袋	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
リュックサック	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
簡易トイレ	5.0	0.0	5.1	0.0	5.1
生理用品・おむつ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
くつ・スリッパ	2.2	0.0	2.3	0.0	2.3
その他	5.0	0.0	5.1	0.0	5.1
特になくて困ったものはなかった	11.1	0.0	11.3	0.0	11.3

【2位:】					
回答者数	180	3	177	0	177
携帯ラジオ	4.4	0.0	4.5	0.0	4.5
懐中電灯	1.7	0.0	1.7	0.0	1.7
予備の乾電池	2.2	0.0	2.3	0.0	2.3
ヘルメット・防災ずきん	0.6	0.0	0.6	0.0	0.6
非常食	21.1	33.3	20.9	0.0	20.9
飲料水	16.1	0.0	16.4	0.0	16.4
ライター・マッチ	1.1	0.0	1.1	0.0	1.1
ティッシュペーパー	1.1	0.0	1.1	0.0	1.1
ナイフ・かんきり	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
スプーン・はし・カップ	1.1	0.0	1.1	0.0	1.1
下着・靴下	3.3	0.0	3.4	0.0	3.4
救急薬品・常備薬	3.9	0.0	4.0	0.0	4.0
現金	3.9	0.0	4.0	0.0	4.0
通帳や印鑑	1.7	0.0	1.7	0.0	1.7
タオル	2.2	0.0	2.3	0.0	2.3
てぶくろ(軍手)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
筆記用具・ノート	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
雨具	0.6	0.0	0.6	0.0	0.6
毛布または寝袋	6.1	0.0	6.2	0.0	6.2
ビニール袋	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
リュックサック	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
簡易トイレ	5.6	33.3	5.1	0.0	5.1
生理用品・おむつ	3.9	33.3	3.4	0.0	3.4
くつ・スリッパ	2.2	0.0	2.3	0.0	2.3
その他	2.2	0.0	2.3	0.0	2.3
特になくて困ったものはなかった	0.6	0.0	0.6	0.0	0.6

【3位:】					
回答者数	180	3	177	0	177
携帯ラジオ	6.1	0.0	6.2	0.0	6.2
懐中電灯	3.3	0.0	3.4	0.0	3.4
予備の乾電池	2.8	0.0	2.8	0.0	2.8
ヘルメット・防災ずきん	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
非常食	3.9	33.3	3.4	0.0	3.4
飲料水	6.1	0.0	6.2	0.0	6.2
ライター・マッチ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ティッシュペーパー	0.6	0.0	0.6	0.0	0.6
ナイフ・かんきり	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
スプーン・はし・カップ	0.6	0.0	0.6	0.0	0.6
下着・靴下	7.2	0.0	7.3	0.0	7.3
救急薬品・常備薬	2.8	0.0	2.8	0.0	2.8
現金	3.9	0.0	4.0	0.0	4.0
通帳や印鑑	0.6	0.0	0.6	0.0	0.6
タオル	0.6	0.0	0.6	0.0	0.6
てぶくろ(軍手)	3.3	0.0	3.4	0.0	3.4
筆記用具・ノート	0.6	0.0	0.6	0.0	0.6
雨具	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
毛布または寝袋	5.6	0.0	5.6	0.0	5.6
ビニール袋	0.6	0.0	0.6	0.0	0.6
リュックサック	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
簡易トイレ	5.6	0.0	5.6	0.0	5.6
生理用品・おむつ	2.8	33.3	2.3	0.0	2.3
くつ・スリッパ	2.2	0.0	2.3	0.0	2.3
その他	14.4	0.0	14.7	0.0	14.7
特になくて困ったものはなかった	9.4	33.3	9.0	0.0	9.0

Q2-6)

Q2-4SQ2で1. あるとお答えの方へ)避難所生活の開始直後、以下の問題はどの程度不安でしたか。

【A)食料や水の問題】					
表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	180	3	177	0	177
非常に不安に感じた	38.9	33.3	39.0	0.0	39.0
ある程度不安に感じた	32.2	66.7	31.6	0.0	31.6
あまり不安には感じなかった	23.9	0.0	24.3	0.0	24.3
全く不安には感じなかった	3.9	0.0	4.0	0.0	4.0
【B)日用品(毛布や下着など)の問題】					
回答者数	180	3	177	0	177
非常に不安に感じた	19.4	0.0	19.8	0.0	19.8
ある程度不安に感じた	36.7	66.7	36.2	0.0	36.2
あまり不安には感じなかった	34.4	0.0	35.0	0.0	35.0
全く不安には感じなかった	7.8	33.3	7.3	0.0	7.3
【C)自分や家族が病気になるなどの医療問題】					
回答者数	180	3	177	0	177
非常に不安に感じた	28.9	0.0	29.4	0.0	29.4
ある程度不安に感じた	29.4	0.0	29.9	0.0	29.9
あまり不安には感じなかった	33.9	66.7	33.3	0.0	33.3
全く不安には感じなかった	5.6	33.3	5.1	0.0	5.1
【D)乳幼児や高齢者、体の不自由な者と生活できるか】					
回答者数	180	3	177	0	177
非常に不安に感じた	17.8	0.0	18.1	0.0	18.1
ある程度不安に感じた	25.6	0.0	26.0	0.0	26.0
あまり不安には感じなかった	40.6	66.7	40.1	0.0	40.1
全く不安には感じなかった	15.0	33.3	14.7	0.0	14.7
【E)洗濯や入浴の問題】					
回答者数	180	3	177	0	177
非常に不安に感じた	40.6	0.0	41.2	0.0	41.2
ある程度不安に感じた	38.3	66.7	37.9	0.0	37.9
あまり不安には感じなかった	16.7	33.3	16.4	0.0	16.4
全く不安には感じなかった	3.3	0.0	3.4	0.0	3.4
【F)トイレの問題】					
回答者数	180	3	177	0	177
非常に不安に感じた	50.6	33.3	50.8	0.0	50.8
ある程度不安に感じた	30.6	66.7	29.9	0.0	29.9
あまり不安には感じなかった	13.3	0.0	13.6	0.0	13.6
全く不安には感じなかった	4.4	0.0	4.5	0.0	4.5
【G)応急の仮設住宅にいつ入居できるか】					
回答者数	180	3	177	0	177
非常に不安に感じた	18.3	33.3	18.1	0.0	18.1
ある程度不安に感じた	22.2	0.0	22.6	0.0	22.6
あまり不安には感じなかった	37.2	33.3	37.3	0.0	37.3
全く不安には感じなかった	21.1	33.3	20.9	0.0	20.9
【H)不安や精神的なストレスによる体調悪化】					
回答者数	180	3	177	0	177
非常に不安に感じた	25.6	33.3	25.4	0.0	25.4
ある程度不安に感じた	35.6	0.0	36.2	0.0	36.2
あまり不安には感じなかった	27.2	33.3	27.1	0.0	27.1
全く不安には感じなかった	10.6	33.3	10.2	0.0	10.2
【I)プライバシーの問題】					
回答者数	180	3	177	0	177
非常に不安に感じた	31.1	33.3	31.1	0.0	31.1
ある程度不安に感じた	32.2	0.0	32.8	0.0	32.8
あまり不安には感じなかった	27.2	66.7	26.6	0.0	26.6
全く不安には感じなかった	8.3	0.0	8.5	0.0	8.5
【J)離れ離れになった親戚や家族の安否】					
回答者数	180	3	177	0	177
非常に不安に感じた	28.9	0.0	29.4	0.0	29.4
ある程度不安に感じた	27.8	33.3	27.7	0.0	27.7
あまり不安には感じなかった	25.6	33.3	25.4	0.0	25.4
全く不安には感じなかった	16.1	33.3	15.8	0.0	15.8
【K)ペット問題】					
回答者数	180	3	177	0	177
非常に不安に感じた	14.4	33.3	14.1	0.0	14.1
ある程度不安に感じた	11.1	33.3	10.7	0.0	10.7
あまり不安には感じなかった	13.9	0.0	14.1	0.0	14.1
全く不安には感じなかった	58.9	33.3	59.3	0.0	59.3

Q2-7)

上記 A～K 以外で、その他不安に感じたものはありましたか。

「収入がなくなる可能性」「元の生活に戻るのにどれだけの時間と金がかかるか」「自宅の復旧にどれくらいの金がかかるか。どうやって復旧すればいいのか」何もかも無くなってこれからどうすればいいか」被災後の仕事の有無」「会社や自宅が元の建物になるのはどうすればいいか」「住宅ローンの支払いはどうなるのか」「とにかく 寄る辺のない気持ちをどうすればいいか」「子どもを今の学校に通い続けさせることができるかどうか」「持病の薬をどうやって確保するか」「家に残っている大切なもの（思い出、お金や通帳、大事な書類）

が無事かどうか」「将来への漠然とした不安」「ライフラインはいつ復旧するか。二次被害は大丈夫か」「今後の生活設計」「暖房器具がない」など。

Q3 ご家庭の安全空間やお持ちの家具の固定についてお伺いします。

Q3-1)

ご家庭で、以下のような対応をしていますか。行っているものを全てお選びください。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1600	800	800	0	177
棚・タンス、冷蔵庫、テレビなどを金具やベルトで固定している	31.3	40.0	22.5	0.0	29.4
窓ガラスなどに飛散防止フィルムを貼るなどしている	9.1	10.9	7.4	0.0	13.6
食器や収納物が飛び出さないように防止具をつけている	17.4	22.5	12.4	0.0	15.8
寝室、幼児・高齢者のいる部屋にはなるべく家具を置かない	36.9	37.3	36.5	0.0	40.1
部屋の出入り口や廊下、階段にはモノを置かない	38.0	37.6	38.4	0.0	44.6
家具の上にガラスなど落下する危険なモノを置かない	34.4	31.4	37.5	0.0	48.0
その他	2.6	2.3	3.0	0.0	6.8
この中にしていることはない	27.0	24.9	29.1	0.0	21.5

その他「無駄にものを所有しない」「背の高いタンスはほとんど処分した」など。

Q3-2) (1)で「1. 棚・タンス、ピアノ、仏壇、冷蔵庫、テレビなどを金具やベルトで固定している」、「2. 窓ガラスや照明器具が割れないように飛散防止フィルムを張ったり補強したりしている」、「3. 食器や収納物が飛び出さないように防止具をつけている」のいずれも選択しなかった方へ)その理由はなぜですか。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	941	395	546	0	107
建物や家具を傷めるから	10.1	12.2	8.6	0.0	4.7
部屋の見た目が悪くなるから	8.7	7.3	9.7	0.0	5.6
手間が掛かるから	38.8	42.8	35.9	0.0	27.1
費用が掛かるから	25.7	31.6	21.4	0.0	16.8
家具類を置いていない安全な部屋があるから	16.7	13.7	18.9	0.0	29.0
固定しなくても大丈夫だと思うから	15.1	13.2	16.5	0.0	15.9
固定してもたいして効果はないと思うから	18.5	17.2	19.4	0.0	27.1
そもそも地震災害が起きるとは思わないから	5.6	3.5	7.1	0.0	5.6
その他	10.8	12.9	9.3	0.0	7.5

その他「借家で壁にくぎを打ちにくい」「必要と思ってもなかなか行動に移しにくい」「地震が来たら無駄」「阪神・淡路ほどの地震はもう来ない」「阪神・淡路でも倒れなかった」「時間的余裕がない」など。

Q4 日常生活における地震避難訓練の経験についてお伺いします。

Q4-1)

あなたは2010年1月1日から現在にかけて、何回地震の避難訓練に参加しましたか。

※職場や学校での地震避難訓練も含めてお答え下さい。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1600	800	800	0	177
0回	73.3	61.0	85.6	0.0	83.6
1回	18.7	27.0	10.4	0.0	9.0
2回	5.9	9.5	2.4	0.0	4.0
3回	1.2	1.5	0.9	0.0	1.1
4回以上	0.9	1.0	0.8	0.0	2.3

Q4-1)SQ1 (1)で0回とお答えの方へ)その理由は何ですか。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1173	488	685	0	148
そもそも訓練が行われていない	47.0	21.1	65.4	0.0	60.8
訓練は行われているが、他にやる事があるので参加していない	20.2	40.4	5.8	0.0	6.1
訓練は行われているが、参加する必要性を感じない	5.1	8.4	2.8	0.0	4.1
訓練が行われているかわからない	27.7	30.1	26.0	0.0	29.1

Q4-1)SQ2

(1)で地震避難訓練の経験が1回以上あるとお答えの方へ)もし、お住まいの地域に震度6強以上の巨大地震災害が起きた場合、参加した地震避難訓練はどの程度役に立つと思いますか。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	427	312	115	0	29
1、訓練に参加したことで、自分自身が助かることが出来ると思う	8.0	6.7	11.3	0.0	20.7
2、訓練には参加したが、自分自身が無事では済まないと思う	25.8	26.3	24.3	0.0	24.1
3、自分自身はどうなるかわからないが、訓練で助かる人は増えると思う	66.3	67.0	64.3	0.0	55.2

Q4-1)SQ3 (1)で地震避難訓練の経験が1回以上あるとお答えの方へ)

Q4-1)SQ2でそう思う理由を教えてください。

【1】「震災のとき実際に役に立ったから」「避難時の注意点を知っているだけでも助かる確率は増える」「訓練に参加している人たちの真剣さを感じたため」「地域の人たちと顔見知りになっているから助け合える」【2】「訓練の想定と同じように自宅で起きるとは限らないから」「訓練のための訓練になっているから」「自分は高齢者だから」「訓練に津波が入っていないから」「寝ているときに起きれば逃げようもない」「阪神・淡路大震災のときに揺れの中で行動するのは不可能だったから」「直下型地震ではどうしようもない」「震災のときに階段がつぶれた。実際、訓練通りにはいかない」【3】「救助の仕方などいざとなると自信はないが、だれかはできると思う」地震に対する知識を持っている人が多い方が、お互い助け合える人も増えると思う」「過度のパニックにはならなくて済む」など。

Q5 地震に備えた行動を取っているかどうかについてお伺いします

Q5-1)以下にあげる中で、巨大地震災害に備えてお宅で行っているものを、全てお選びください。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1600	800	800	0	177
家具の転倒、落下防止策を講じている	33.7	42.1	25.3	0.0	33.3
ブレーカーやコンセントの位置を確認している	40.1	45.1	35.0	0.0	40.1
不必要な家電製品のコンセントは抜いている	24.3	25.1	23.4	0.0	24.3
ガスを使わない時には、ガス栓を閉めるなど、火気器具の周りを整理	24.8	25.1	24.4	0.0	32.2
風呂の浴槽にいつも水を入れている	21.4	20.9	21.9	0.0	30.5
消火器などを用意している	27.3	29.4	25.3	0.0	30.5
ハザードマップや地震情報などから居住地域の安全性を把握している	15.0	12.9	17.1	0.0	22.6
新聞、テレビやインターネットなどから、防災の知識を身につけておく	25.2	26.8	23.6	0.0	29.4
講演会や防災訓練に参加し、過去の地震の教訓や避難要領を学んでおく	4.0	5.3	2.8	0.0	4.0
被災時の家族の役割を決めている	2.6	2.6	2.6	0.0	6.8
家族との連絡方法を決めている	17.5	18.1	16.9	0.0	26.0
警戒宣言が発せられた時や突発地震の時に避難する場所を決めている	14.9	16.9	12.9	0.0	21.5
家族が離れ離れになった時に、落ち合う場所を決めている	16.2	17.6	14.8	0.0	20.9
避難場所に避難する時は隣近所に声を掛け合うようにしている	5.8	6.3	5.3	0.0	10.2
幼稚園や小学校と園児・児童の引きとりについて方法を決めている	10.8	14.5	7.0	0.0	6.8
ガラス飛散防止をしている	6.4	8.4	4.4	0.0	8.5
ガスボンベが倒れないようにしている	2.9	4.6	1.3	0.0	1.7
非常持ち出し品を準備している	26.7	33.6	19.8	0.0	23.2
171災害伝言ダイヤルの体験版を利用してみた	5.6	8.9	2.4	0.0	4.0
その他	1.1	1.5	0.6	0.0	1.1
特に備えていることはない	19.6	16.0	23.3	0.0	16.9

その他「1階で寝ない」「災害時に別の地域から助けに来てくれる組織に加入している」「雨水タンクで貯水」など。

Q 6 町内会や自主防災組織の加入についてお伺いします。

Q6-1)あなたのお宅は町内会(自治会)組織に参加していますか。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1600	800	800	0	177
入っている	72.1	81.8	62.5	0.0	60.5
入っていない	14.9	11.9	17.9	0.0	15.8
町内会(自治会)組織は存在しない	5.2	1.3	9.1	0.0	9.6
わからない	7.7	5.0	10.4	0.0	13.6

Q6-2)あなたのお住まいの地域では、地域のお祭りは行われていますか。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1600	800	800	0	177
はい	80.2	89.5	70.9	0.0	80.2
いいえ	19.8	10.5	29.1	0.0	19.8

Q6-2)SQ (2)で1. はいとお答えの方へ)あなたのお住まいの地域で行われているお祭りはどのような印象ですか。以下の中から近いものをひとつだけお選びください。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1283	716	567	0	142
参加者も多く、活気がある	40.4	38.8	42.3	0.0	51.4
参加者はいるが、盛り上がり欠ける	32.7	34.4	30.5	0.0	27.5
参加者はまばらで、盛り上がりがない	8.6	8.9	8.1	0.0	7.7
わからない	18.4	17.9	19.0	0.0	13.4

Q6-3)

以下のうち、あなたがお住まいの地域にあてはまる事柄をそれぞれお選び下さい。

【A)住民は】					
回答者数	1600	800	800	0	177
この地域に長く住んでいる人が多い	80.0	83.1	76.9	0.0	78.0
この地域に長く住んでいる人は多くない	19.9	16.6	23.1	0.0	22.0
【B)若者は】					
回答者数	1600	800	800	0	177
多い	43.4	41.4	45.4	0.0	48.0
少ない	56.4	58.5	54.3	0.0	52.0
【C)子どもは】					
回答者数	1600	800	800	0	177
多い	46.8	46.4	47.3	0.0	53.1
少ない	52.5	53.3	51.8	0.0	46.9
【D)高齢者は】					
回答者数	1600	800	800	0	177
多い	88.8	89.9	87.6	0.0	94.4
少ない	10.4	9.0	11.8	0.0	5.1
【E)世帯の状況は】					
回答者数	1600	800	800	0	177
単身世帯が多い	13.3	12.5	14.1	0.0	13.6
2人以上世帯が多い	85.5	86.1	84.9	0.0	84.7
【F)地域の人口は】					
回答者数	1600	800	800	0	177
増加している	58.8	61.6	55.9	0.0	57.1
減少している	41.1	38.3	44.0	0.0	42.9

Q6-4)あなたのお宅は、地域の自主防災組織に入っていますか。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1600	800	800	0	177
入っている	18.9	29.5	8.4	0.0	14.7
入っていない	30.9	30.0	31.9	0.0	33.3
地域に自主防災組織はない	16.6	6.3	27.0	0.0	18.6
わからない	33.5	34.3	32.8	0.0	33.3

Q6-4)SQ1(4)で1. 入っていると答えの方へ)所属している自主防災組織は以下の活動を行っていますか。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	303	236	67	0	26
地域住民への防災意識の普及・啓発	57.4	55.1	65.7	0.0	73.1
防災訓練の実施	84.2	88.1	70.1	0.0	69.2
他の自主防災組織との協働による防災活動の活性化	23.4	23.3	23.9	0.0	30.8
その他	1.0	0.8	1.5	0.0	0.0

4. その他「火の用心の巡回」「救急医療の講習」

Q6-4)SQ2(4)で1. 入っていると答えの方へ)所属している自主防災組織の活動は活発だと思いますか。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	303	236	67	0	26
活発である	6.6	6.8	6.0	0.0	11.5
まあ活発である	52.5	52.5	52.2	0.0	61.5
あまり活発でない	28.7	28.8	28.4	0.0	23.1
全く活発でない	3.3	3.0	4.5	0.0	3.8
わからない	8.3	8.1	9.0	0.0	0.0

Q7 お住まいの地域に巨大地震災害が起きる可能性についてお伺いします

Q7-1) 今後 10 年以内に、あなたがお住まいの地域に震度 6 強以上の巨大地震災害が起きると思いますか。

回答者数	1600	800	800	0	177
思う	52.1	72.5	31.8	0.0	36.2
思わない	47.9	27.5	68.3	0.0	63.8

Q7-1)SQ1 (1)で1. 思うとお答えの方へ)どの程度起きると思いますか。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	834	580	254	0	64
ほとんど確実に起きる	14.7	17.1	9.4	0.0	14.1
恐らく起きると思う	54.0	58.1	44.5	0.0	40.6
僅かだが起きる可能性はあると思う	25.3	20.0	37.4	0.0	42.2
全く起きないとは言えない	6.0	4.8	8.7	0.0	3.1

Q7-1)SQ2 (1)で2. 思わないとお答えの方へ)

その理由は何ですか。

【静岡】「次は東海地震だと言われ続け、他の地域ばかりで地震が起きている、おおかみ少年ではないが、何となくこのまま来ないのではないかなと思って油断してしまっている」「小さい地震はよくあるのでエネルギーがたまっていないのではないかな」「近代史に於いて、今迄この地域で巨大地震が起きていないから」「20 代ははじめのころから大騒ぎをしているがいまだに大きな地震はない。現在 60 代であり、おきる可能性は低い。もし仮に地震が起きて死んでも人生の終わりは必ずあり、悔いはない」「全然予期していない阪神淡路や新潟・東北地震等ばかり発生しているし、本当に来るのだろうか」と疑問に感じるようになった【兵庫】「もう阪神大震災が来たので、もうしばらく来ないと思っている」「人生で2回も体験はしないだろう」「あんな災害を生涯で二度も経験すると思いたくない。現実には、どこでも起こりうるとわかっていても」「南海では6強にはいかないし、山崎断層はもう少し先」「阪神・淡路大震災以外の地震の情報はあまり取り上げられない」「もうあれ以上のひどいものはきてほしくないと思ひ込んでいるから。(学術的な根拠があるわけではなく、きてほしくないという思いから)」「実際分かりません。まさか神戸にあんなに大きな地震が来ると誰が思っていましたか・・・」「震災は特別で、もともと神戸に大きな断層はないはず」

Q7-2)もし、あなたのお住まいの地域付近で「震度 6 強以上」の巨大地震が起きたとしたら、直接・間接的に、あなたとお住まいの住宅は、どの程度の被害を受けると思いますか。1～5の間で最も起きそうだと思う被害予想を1つ選んでください。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1600	800	800	0	177
住宅は完全に倒壊・焼失し、自身も助からない	8.8	12.1	5.5	0.0	7.3
住宅や公共インフラは甚大な被害を受けるが、命は助かる	31.8	33.0	30.6	0.0	36.7
住宅や公共インフラはある程度被害は受けるが、地域での生活は続けられる	44.1	40.6	47.5	0.0	44.6
住宅などの被害は軽微で、今まで通りの暮らしを継続できる	12.5	12.1	12.9	0.0	9.6
地震は体感するが、日常生活にあまり影響はない	2.8	2.1	3.5	0.0	1.7

現在、東海地震をきっかけとして「東海」「東南海」「南海」の3連動地震を引き起こす可能性が指摘されています。この連動地震により兵庫県内でも最大震度6強の揺れや津波が到達すると予測されています。

Q7-3) 3つの巨大地震の連動という事象を知っていますか。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1600	800	800	0	177
知っている	47.1	48.5	45.8	0.0	55.9
知らない	52.9	51.5	54.3	0.0	44.1

Q7-3) SQ1(1)で1. はいとお答えの方へ)3連動地震にどの程度、関心がありますか。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	754	388	366	0	99
大いにある	35.1	38.7	31.4	0.0	36.4
ある程度ある	57.6	56.2	59.0	0.0	59.6
あまりない	6.6	4.6	8.7	0.0	4.0
ない	0.4	0.3	0.5	0.0	0.0

地震の予知は困難とされていますが、東海地震については気象庁が唯一、観測網から「数時間以内」に発生する可能性がある」「2～3日以内に発生する可能性がある」というレベルで、予知できるかもしれないとしています。大学などが予知の研究を進めています。

Q7-4)「地震予知」そのものに期待しますか。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1600	800	800	0	177
する	18.6	22.0	15.1	0.0	15.3
ある程度する	48.6	46.6	50.6	0.0	45.2
あまりしない	27.1	24.8	29.5	0.0	32.8
しない	5.7	6.6	4.8	0.0	6.8

Q7-4) SQ1 (1)で1. する、2. ある程度するとお答えの方へ)なぜそのように思いますか。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1075	549	526	0	107
予知できれば人的、物的被害の軽減につながるから	86.3	88.2	84.4	0.0	81.3
耐震化や家具固定より、有効な地震対策と言えるから	24.9	26.0	23.8	0.0	29.9
地震予知の研究がかなり進んできているから	34.2	34.8	33.7	0.0	34.6
その他	0.7	0.5	0.8	0.0	2.8

その他「15年前に予知を聞いていれば助かった命があると思うから」「逃げることはできなくても心構えはできる」など。

Q7-4) SQ2 (1)で3. あまりしない、4. しないとお答えの方へ)「あまりしない」「しない」と答えた方にお聞きします。なぜそのように思いますか。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	525	251	274	0	70
被害の軽減につながるか分からないと思うから	22.1	19.9	24.1	0.0	27.1
予知できたらかえって社会が混乱すると思うから	19.0	17.9	20.1	0.0	20.0
技術的に予知できないと思うから	69.5	68.9	70.1	0.0	71.4
その他	7.0	8.0	6.2	0.0	7.1

4) その他「地震は突発的に間に合わないから」「前は期待していたが、遅々としてその成果レベルが進んでいないことに失望感を感じる」など。

Q7-5)

予知できれば事前に避難行動が取れることなどが期待されています。どれくらい前までにあなたに伝えれば「予知できた」と言えると考えますか。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1600	800	800	0	177
1日以上前	39.2	37.1	41.3	0.0	42.9
半日前	30.3	30.6	29.9	0.0	26.6
1時間前	17.9	17.8	18.0	0.0	18.6
30分前	6.2	7.3	5.1	0.0	4.5
10分前	6.5	7.3	5.8	0.0	7.3

Q8 組織や制度への信頼感についてお伺いします

Q8-1) 一般的に言って、あなたは人を信頼するほうですか。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1600	800	800	0	177
一般的に人は信頼できる	59.7	60.5	58.9	0.0	58.8
他人は用心に越したことはない	40.3	39.4	41.1	0.0	41.2

Q8-2) 地震で住居に大きな被害を受け、避難しなければならなくなったときに、自分たちの生活を回復する上で、市・町・村(行政)はどの程度、頼りにできると思いますか。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1600	800	800	0	177
頼りにできる	7.9	6.5	9.4	0.0	12.4
やや頼りにできる	46.8	49.9	43.6	0.0	40.7
あまり頼りにできない	39.3	39.5	39.0	0.0	34.5
頼りにできない	6.1	4.1	8.0	0.0	12.4

Q8-3) 地震で、「あなた」の日常生活に支障が生じたとき、「隣近所の人々」は、どのくらい援助してくれると思いますか。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1600	800	800	0	177
生活全般にわたり、援助を期待できる	2.1	1.8	2.4	0.0	4.0
生活の一部分について、ある程度援助を期待できる	24.9	23.9	26.0	0.0	32.2
どのくらい援助してくれるか分からない	44.8	47.6	42.0	0.0	34.5
援助をあまり期待できない	18.9	18.9	19.0	0.0	17.5
援助をほとんど期待できない	8.8	7.4	10.3	0.0	11.9

Q8-4) 地震や台風などで、「あなた」の日常生活に支障が生じたとき、地元の「町内会や自治会」は、どのくらい援助してくれると思いますか。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1600	800	800	0	177
生活全般にわたり、援助を期待できる	1.2	1.1	1.3	0.0	1.7
生活の一部分について、ある程度援助を期待できる	20.3	21.4	19.1	0.0	25.4
どのくらい援助してくれるか分からない	46.1	49.4	42.9	0.0	34.5
援助をあまり期待できない	21.2	19.4	23.0	0.0	22.0
援助をほとんど期待できない	10.8	8.3	13.3	0.0	16.4

Q8-5) 地震が発生した直後、救助活動では誰を一番頼りにしますか。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1600	800	800	0	177
消防職員	17.4	17.6	17.3	0.0	13.6
自衛隊	20.6	20.5	20.6	0.0	16.9
警察	1.1	0.6	1.5	0.0	2.3
家族	35.3	33.6	36.9	0.0	42.4
親戚	2.0	1.4	2.6	0.0	2.3
隣近所の知人や友人	15.9	15.9	16.0	0.0	16.4
地域組織(町内会、自主防災組織)	5.3	7.5	3.0	0.0	1.7
自治体職員	0.3	0.0	0.5	0.0	0.6
その他	2.1	2.6	1.5	0.0	3.4

その他「自分自身しかいない」「誰も期待できない」「災害ボランティア」など。

Q8-6) 地震発生時に周囲がパニック状態になっています。あなたは避難を呼びかけるなど率先した行動を取る事ができる自信がありますか。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1600	800	800	0	177
大いにある	7.4	6.1	8.6	0.0	14.7
少しある	35.6	35.0	36.3	0.0	35.6
あまりない	43.9	45.1	42.8	0.0	37.9
全くない	13.1	13.8	12.4	0.0	11.9

Q8-6) SQ1. (6)で1. 大いにある、2. 少しあるとお答えの方へ)その理由は何ですか。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	688	329	359	0	89
防災訓練や日常生活の業務などを通して、専門的な知識や技術を身につけているから	13.5	18.8	8.6	0.0	16.9
過去に被災した際に、そういう行動を取った経験があるから	21.7	5.5	36.5	0.0	60.7
根拠はないが、自分はそういう行動を取る性格だから	69.3	80.2	59.3	0.0	32.6
地域組織や家族間の話し合いで、そういう役割を与えられているから	4.5	4.9	4.2	0.0	3.4
その他	3.6	3.3	3.9	0.0	4.5

その他「専門的ではないが、避難訓練を積んできているから」「過去の職歴から」「できないとか言っている場合じゃないから」など。

Q9 社会の諸制度への信頼についてお伺いします

Q9-1) 以下にあげる a～f について、それぞれ近い考えを 1 つずつお選びください。

【a. 現在の警察は犯罪の抑止に十分効果をもっている】					
回答者数	1600	800	800	0	177
そう思う	11.4	13.4	9.5	0.0	9.6
少しそう思う	44.6	44.1	45.1	0.0	42.9
あまりそう思わない	35.8	35.8	35.8	0.0	36.7
そう思わない	8.0	6.5	9.5	0.0	10.7
【b. 現在の司法制度のもとでは、誰もが公平な扱いを受けることができる】					
回答者数	1600	800	800	0	177
そう思う	4.1	4.6	3.5	0.0	3.4
少しそう思う	29.4	32.4	26.5	0.0	20.9
あまりそう思わない	50.1	47.6	52.5	0.0	54.8
そう思わない	16.3	15.0	17.5	0.0	20.9
【c. 新聞、ラジオ、テレビは、できるかぎり正しい情報を提供しようとしている】					
回答者数	1600	800	800	0	177
そう思う	9.1	10.6	7.5	0.0	10.7
少しそう思う	49.6	50.1	49.1	0.0	41.2
あまりそう思わない	29.6	29.3	29.9	0.0	32.2
そう思わない	11.4	9.6	13.3	0.0	15.3
【d. 地域で問題が起こったとき、行政は誠実にその解決に取り組んでくれる】					
回答者数	1600	800	800	0	177
そう思う	3.1	3.0	3.3	0.0	5.1
少しそう思う	35.3	39.8	30.9	0.0	25.4
あまりそう思わない	47.1	45.3	48.9	0.0	48.6
そう思わない	14.1	11.4	16.8	0.0	19.8
【e. 自分に小学生のこどもがいたとしたら、公立学校の先生には安心して子供を預けられる】					
回答者数	1600	800	800	0	177
そう思う	5.7	6.6	4.8	0.0	6.2
少しそう思う	43.8	46.6	41.0	0.0	36.2
あまりそう思わない	38.9	36.5	41.4	0.0	41.8
そう思わない	11.2	9.9	12.5	0.0	14.7
【f. スーパーやコンビニで売っている商品は、安心して食べることができる】					
回答者数	1600	800	800	0	177
そう思う	14.6	15.9	13.3	0.0	14.1
少しそう思う	59.7	61.0	58.4	0.0	55.9
あまりそう思わない	21.9	19.9	23.9	0.0	23.2
そう思わない	3.8	3.0	4.5	0.0	6.8

Q10 地域生活における日常的なリスクに関して伺います。

Q10-1) 普段のテレビ・新聞・インターネットなどの情報のうち、不安に感じる項目はどれですか。上位3つを1位から順番に回答してください。

1. 犯罪事件 2. 事故 3. 自然災害・異常気象 4. 医療・福祉問題 5. 経済問題

【1位:】					
表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1600	800	800	0	177
犯罪事件	43.9	41.3	46.5	0.0	39.0
事故	4.1	4.5	3.8	0.0	1.1
自然災害・異常気象	16.1	18.0	14.3	0.0	16.9
医療・福祉問題	7.7	7.1	8.3	0.0	10.2
経済問題	28.1	29.1	27.1	0.0	32.8

【2位:】					
回答者数	1600	800	800	0	177
犯罪事件	19.0	18.5	19.5	0.0	12.4
事故	17.9	19.4	16.5	0.0	18.6
自然災害・異常気象	23.3	23.4	23.3	0.0	16.9
医療・福祉問題	21.9	21.3	22.5	0.0	28.2
経済問題	17.8	17.5	18.1	0.0	23.7

【3位:】					
回答者数	1600	800	800	0	177
犯罪事件	16.4	16.0	16.8	0.0	22.0
事故	15.6	16.0	15.3	0.0	13.6
自然災害・異常気象	28.1	29.1	27.1	0.0	28.2
医療・福祉問題	19.8	19.5	20.1	0.0	19.2
経済問題	19.7	19.1	20.3	0.0	16.4

Q10-2) 地域における日常生活において最も不安を感じる項目はどれですか。上位3つを 1 位から順番に回答してください。

1. 不審者・ストーカー 2. 空き巣・ひったくり・窃盗・強盗 4. 暴力トラブル・殺人 5. 性犯罪 6. 交通事故 7. 公害 8. 詐欺 9. 火災 10. 水害 11. 地震

【1位:】					
表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1600	800	800	0	177
不審者・ストーカー	9.8	7.0	12.6	0.0	14.1
空き巣・ひったくり・窃盗・強盗	21.9	19.1	24.6	0.0	20.3
暴力トラブル・殺人	18.9	17.6	20.1	0.0	19.2
性犯罪	2.7	2.9	2.5	0.0	2.3
交通事故	22.9	27.1	18.6	0.0	21.5
公害	0.9	0.9	1.0	0.0	1.1
詐欺	2.3	2.5	2.0	0.0	1.1
火災	7.4	5.4	9.4	0.0	10.2
水害	0.8	0.4	1.3	0.0	1.7
地震	12.3	16.9	7.6	0.0	8.5

【2位:】					
回答者数	1600	800	800	0	177
不審者・ストーカー	10.4	9.3	11.5	0.0	10.2
空き巣・ひったくり・窃盗・強盗	23.2	22.3	24.1	0.0	23.7
暴力トラブル・殺人	12.9	11.6	14.1	0.0	13.0
性犯罪	3.9	2.6	5.1	0.0	7.3
交通事故	17.8	16.8	18.8	0.0	13.6
公害	1.8	1.8	1.9	0.0	5.6
詐欺	3.9	4.4	3.4	0.0	4.0
火災	13.4	15.3	11.5	0.0	16.4
水害	2.8	3.3	2.4	0.0	2.3
地震	9.8	12.6	6.9	0.0	4.0

【3位:】					
回答者数	1600	800	800	0	177
不審者・ストーカー	10.8	9.5	12.1	0.0	10.7
空き巣・ひったくり・窃盗・強盗	17.9	19.9	15.9	0.0	16.9
暴力トラブル・殺人	11.0	10.4	11.6	0.0	10.7
性犯罪	3.4	3.0	3.8	0.0	6.2
交通事故	17.3	16.6	17.9	0.0	17.5
公害	1.8	2.0	1.5	0.0	1.7
詐欺	7.0	7.4	6.6	0.0	4.5
火災	13.1	13.0	13.1	0.0	11.3
水害	2.8	2.8	2.9	0.0	4.0
地震	14.6	15.1	14.1	0.0	16.4

あなたご自身の事についてお伺いします。

F1 あなたの性別は。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1600	800	800	0	177
男性	48.9	48.0	49.9	0.0	50.3
女性	51.1	52.0	50.1	0.0	49.7

F2 現在の満年齢は。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1600	800	800	0	177
19歳以下	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20代	15.3	12.9	17.6	0.0	16.9
30代	26.7	31.4	22.0	0.0	18.6
40代	28.3	31.8	24.8	0.0	26.0
50代	17.9	15.4	20.4	0.0	21.5
60代	9.4	6.9	12.0	0.0	13.6
70代	2.3	1.8	2.8	0.0	2.8
80歳以上	0.3	0.0	0.5	0.0	0.6

F3 最終学歴は。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1600	800	800	0	177
中学校卒	1.4	1.9	0.9	0.0	2.3
高等学校卒	26.3	30.0	22.6	0.0	21.5
短大・高専卒	19.9	21.5	18.3	0.0	19.8
大学卒	44.8	39.8	49.9	0.0	48.6
大学院卒	5.9	5.1	6.8	0.0	7.3
その他	1.6	1.5	1.6	0.0	0.6

F4 職業・就業の状況についてうかがいます。以下のうち、あなたはどれにあてはまりますか。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1600	800	800	0	177
勤め人(会社、団体などに従業・勤務している方)	53.2	56.0	50.4	0.0	53.1
自営業	7.2	7.9	6.5	0.0	9.0
自由業	2.1	2.0	2.3	0.0	3.4
専業主婦	22.4	22.0	22.9	0.0	19.2
学生	3.7	1.6	5.8	0.0	3.4
定年退職	2.9	1.6	4.1	0.0	6.2
無職	5.3	5.9	4.8	0.0	1.7
その他	3.2	3.0	3.4	0.0	4.0

F5 世帯年収(税込)はいくらぐらいですか。※年金、仕送り金、利息、配当金なども含めてください。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1600	800	800	0	177
200万円未満	7.5	6.3	8.8	0.0	6.2
400万円未満	21.3	21.3	21.3	0.0	26.6
600万円未満	26.1	27.8	24.5	0.0	26.0
800万円未満	20.0	21.4	18.6	0.0	18.6
1000万円未満	12.7	13.0	12.4	0.0	10.7
1000万円以上	12.1	10.3	14.0	0.0	11.3

F6 個人年収(税込)はいくらぐらいですか。

※主に勤労所得による収入を対象としてください。年金、仕送り金などは含めないでください。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1600	800	800	0	177
収入はない	22.1	20.8	23.4	0.0	19.8
200万円未満	24.3	25.6	22.9	0.0	20.9
400万円未満	21.8	22.3	21.3	0.0	28.2
600万円未満	15.1	16.4	13.9	0.0	16.4
800万円未満	9.6	10.0	9.1	0.0	8.5
1000万円未満	4.4	3.5	5.4	0.0	4.0
1000万円以上	2.8	1.5	4.0	0.0	2.3

F7 世帯の現在の貯蓄・投資の総額(投資残高)はいくらぐらいですか。株式は時価、公社債は額面金額としてください。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1600	800	800	0	177
100万円未満	29.8	29.6	29.9	0.0	38.4
200万円未満	12.9	14.8	11.0	0.0	11.9
400万円未満	13.2	14.6	11.8	0.0	9.0
700万円未満	12.6	11.8	13.4	0.0	12.4
1000万円未満	6.7	5.9	7.5	0.0	3.4
2000万円未満	11.3	11.5	11.1	0.0	9.0
2000万円以上	13.2	11.5	14.9	0.0	14.7

F8 住居の所有関係は以下のどれになりますか。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1600	800	800	0	177
持家一戸建て(敷地は自己所有)	49.8	59.8	39.9	0.0	33.3
持家マンション(敷地は区分所有)	16.8	5.9	27.8	0.0	31.6
持家一戸建て、マンション(敷地は一般借地)	2.9	1.9	4.0	0.0	6.2
持家一戸建て、マンション(敷地は定期借地)	0.7	0.5	0.9	0.0	1.1
民間の賃貸住宅	20.9	23.8	18.0	0.0	19.2
公営・公団・公社などの賃貸住宅	3.7	2.5	4.9	0.0	5.1
社宅・寮(借り上げ社宅を含む)	3.9	4.4	3.4	0.0	1.1
その他	1.3	1.4	1.3	0.0	2.3

F9 地震保険に加入していますか。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1600	800	800	0	177
はい	39.1	43.9	34.3	0.0	39.5
いいえ	46.3	40.1	52.4	0.0	48.6
わからない	14.6	16.0	13.1	0.0	11.9

F10 現在の住居に住まわれるようになった状況で、以下のうちあてはまるものをお選びください。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1600	800	800	0	177
現在住んでいる市町村外から移住してきた	35.9	30.8	41.1	0.0	29.9
同一市町村の中で移住してきた	53.2	55.0	51.4	0.0	63.3
移住をした経験はない	10.6	14.0	7.3	0.0	6.2

F11 同居家族の人数を教えてください。

※自分も含めた数をお答えください。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1600	800	800	0	177
単身世帯	11.4	10.1	12.8	0.0	11.3
2人	22.9	22.9	23.0	0.0	21.5
3人	24.8	23.3	26.3	0.0	27.7
4人	26.7	26.0	27.4	0.0	28.8
5人以上	14.2	17.8	10.6	0.0	10.7

同居家族のうち、自分からみて下記に該当する人はいますか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

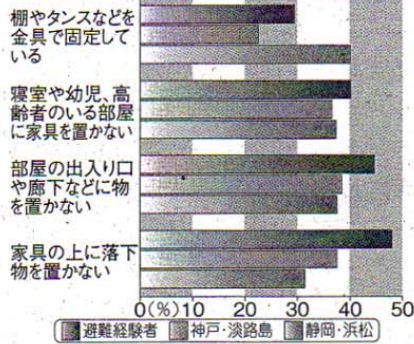
表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1417	719	698	0	157
配偶者	75.4	74.5	76.4	0.0	70.7
子供(男性、女性)	56.6	55.6	57.6	0.0	53.5
父(義理の父も)	22.3	25.9	18.6	0.0	19.7
母(義理の母も)	31.8	38.1	25.2	0.0	28.7
祖父母	3.4	4.2	2.6	0.0	2.5
兄弟姉妹	11.2	13.1	9.2	0.0	12.1
その他親族	1.7	1.8	1.6	0.0	2.5

F12 あなたは近所づきあいをどのようにしていますか。

表側	全体	静岡	兵庫	無回答	兵庫の避難経験者
回答者数	1600	800	800	0	177
ほとんど付き合いが無い	12.9	12.8	13.0	0.0	10.7
挨拶をする程度	46.9	45.9	47.9	0.0	49.7
時々立ち話をする	31.1	33.4	28.8	0.0	27.1
互いに家を訪ねたりする	5.3	4.5	6.1	0.0	6.8
一緒に食事や旅行に出掛けたりする	2.3	2.0	2.5	0.0	2.8
留守を頼んだり親しく話をする	1.4	1.3	1.5	0.0	2.3

地震に備えた家庭内対策

(静岡・浜松、神戸・淡路島、阪神大震災での避難経験者の比較)



浜松市は同震災の被災地に比べ、「家具の固定」は進んでいたが、「室内に物を置かない」などの対策は遅れていた。同震災の避難経験者は、非常時の持ち出し品で「現金」や「印鑑、通帳」を重視していることも浮き上がった。

「関連記事28、29面へ」アンケートは昨年12月下旬、静岡、浜松、神戸の各政令市と淡路島(南あわじ)、洲本、淡路3市に住む20歳以上の男女を対象に実施した。調査を委託した調査会社(東京)に登録し

本社、神戸新聞

阪神大震災16年 合同アンケート

本県、室内対策に遅れ

阪神大震災から17日で、記念21世紀研究機構(同16年が経過するのを機に、静岡新聞社は神戸新聞社(本社神戸市)、公した。地震に備えた家庭益財団法人ひょうし、震災内対策で、本県(静岡、浜松両市)は同震災の被災地に比べ、「家具の固定」は進んでいたが、「室内に物を置かない」など地域で800人ずつから回答を得た。

家庭内対策で、「家具を17%下回った。同震災の死者の多数が倒壊した建物や倒れた家具で圧死した教訓が、被災地で生きていることがうかがえる結果になった。

静岡・浜松38%で神戸・淡路島とほぼ同数だったが、避難経験者(17%)を7%下回った。「家具の上に落下物を置かない」(31%)は神戸中電灯(57%)に次ぐ高かった。静岡・浜松の27%現淡路島より3%高かった。

金、23%(通帳、印鑑)を大きく上回った。地震直後に無くて特に困った物で、避難経験者が挙げた飲料水と非常食について、静岡・浜松の準備状況はそれぞれ46%、39%にとどまった。

被災時の行政の信頼度は、静岡・浜松の56%が「頼りにできる」「やや頼りにできる」と答え、神戸・淡路島は37%が「1日以前に分かれれば予想できたと言える」と回答した。

東海、東南海、南海地震の巨大地震の3連動については、「3連動を知っている」と答えた人(静岡・浜松388人、神戸・淡路島366人)のうち、両地域とも90%以上の人が「関心がある」と答えた。地震予知では、静岡・浜松で37%が「1日以前に分かれれば予想できたと言える」と回答した。

「廊下に物置かない」「現金準備を」



阪神大震災でがれきとなった街並みと、静岡県地震防災センターで家具固定の仕方を啓発した展示品のコラージュ



静岡と合同「地域の関係大切」
アンケート

神戸、大震災の教訓鮮明

「転倒の恐れがある家具は室内に置かない」「持ち出し品として現金を準備している」。

17日で阪神大震災から16年を迎えるのを機に、静岡新聞社と神戸新聞社などが実施した巨大地震に関するアンケート。神戸・淡路島の人々の地震・防災対策には、同震災の教訓が鮮明に映し出された。東海地震が迫る本県へ、力を入れるべき課題ともいえる。

地震に備えた家庭内対策（複数回答）で、「部屋の出入口や廊下などに物を置かない」と答えたのは、静岡・浜松の38%に対し、同震災の避難経験者は45%を占めた。

兵庫県によると、同震災では10万4千棟の建物（全壊）が全壊し、死者約6400人の62%が家屋倒壊や家具転倒などで窒息・圧死した。アンケートの自由回答欄にも（震災後）背の高い家具はほとんど処分した「など、当時の恐ろしさを物語る意見が寄せられた。

神戸・淡路島では、持ち出し品として準備している物に「現金」を挙げた人が目立った。静岡・浜松の27%に対し、神戸・淡路島は32%、避難経験者は38%に上った。

同震災で約900棟の83%が全壊した新長田駅南地区（神戸市長田区）。一角の大正商店街振興組合副理事長で、自身の店舗が全壊した伊東正和さん（62）は「被災者は着の身着のまま逃げたが、その後、何をやるにもお金が要った」と振り返る。伊東さんは震災

後、名刺入れなどにお金を分散して持ち歩くようになったという。

隣近所の援助が「期待できる」「ある程度できる」という答えの割合も静岡・浜松の26%に対して、避難経験者は36%で大きな差があった。

伊東さんは「多くの人が復興というにはほど遠い生活をしている中で、大切なのは地域のつながり。自分や家族の命を守る対策をしっかり講じた上で、地域で助け合える関係をつくりだしていくことが大切」と強調した。

(数字は%)

回答者数	800	800	177
携帯ラジオ	36.9	30.4	32.8
懐中電灯	57.9	52.1	57.1
非常食	39.3	19.8	23.7
飲料水	46.0	26.5	32.8
現金	26.5	31.5	37.9
通帳や印鑑	23.0	29.5	38.4

回答者数	800	800	177
棚やタンスなどを金具などで固定している	40.0	22.5	29.4
寝室や幼児、高齢者がいる部屋に家具を置かない	37.3	36.5	40.1
部屋の出入り口や廊下などに物を置かない	37.6	38.4	44.6
家具の上に落ちる物を置かない	31.4	37.5	48.0

回答者数	800	800	177
家具の転倒防止策	42.1	25.3	33.3
ブレーカーやコンセントの 位置確認	45.1	35.0	40.1
使わないガス栓は閉める など火気器具の点検	25.1	24.4	32.2
消火器などの用意	29.4	25.3	30.5
非常持ち出し品の準備	33.6	19.8	23.2

回答者数	800	800
入っている	29.5	8.4
入っていない	30.0	31.9
地域に自主防災組織はない	6.3	27.0
わからない	34.3	32.8

回答者数	388	366	99
大いにある	38.7	31.4	36.4
ある程度ある	56.2	59.0	59.6
あまりない	4.6	8.7	4.0
ない	0.3	0.5	0.0

回答者数	800	800	177
する	22.0	15.1	15.3
ある程度する	46.6	50.6	45.2
あまりしない	24.8	29.5	32.8
しない	6.6	4.8	6.8

回答者数	800	800	177
生活全般にわたりできる	1.8	2.4	4.0
ある程度できる	23.9	26.0	32.2
どのくらいできるか分からない	47.6	42.0	34.5
あまりできない	18.9	19.0	17.5
ほとんどできない	7.4	10.3	11.9

【注】問1～3の項目は同地域、避難者が上位3位に挙げたものを抜粋し比較した。

林 敏彦氏 同志社大大学院教授



りした経緯もある。田村孝仁県危機報道監と、同志社天大大学院教授でひょうご震災記念21世紀研究機構の林敏彦研究統括に感想を聞いた。

など、避難生活を終えた後、め、さまざまな想定の苦勞に目を向けた記述が結果に違いない。目立った。つまり、被災者だが、復興の力は終

敏彦氏 同志社大大学院教授

る。

一方、兵庫には「しろいも
る準備」で、結局、家は
つくれるんだからと通議
した人が多い印象を受け
てゐる。自分で太刀打ち
られない命、生活があること
だけでなく、復讐も視野に
入れた冷静な高見が求めら
れる。

（聞き手・神戸新聞社
安藤文鏡）

（安藤文暁）

非常用の精を出しに、が意識したのは「生残つてある。持ち出し現場へ」「救物を置かぬ」「できない災害対応」「住みかたを考えた避難民からのリスク」ではない「金が目立つのは、単純に「近所を顧み」は救済高は懸る先と」常に盲目に「金がないと始まらない」の教訓を生かす意識は強日常的に安を感じている「金がないと始まらない」の教訓を生かす意識は強日常的に安を感じている「金がないと始まらない」の教訓を生かす意識は強日常的に安を感じている



岩田孝仁氏
県危機報道監

100

は、これに反する。一人を所でスパーの三層と号えた人も浄司・兵公

「それが、それがいい。」「
悪いが、それは悪い。」「
正しい方法、固定する」とが
難い。世間では「固定が」
されているが、食料や取引
の納物が飛出さないための
防止し設置率は23%止り。
市など被ばく地から少し離れ
る関係でつりが急務。14
月の地域防災訓練などを通
して進めた。」
（聞き手：社会部 武田 愛 敬）

面白いが、それは難しい。た。」「それでも正しい方法で固定することが大切。借家などで固定がていている人は40％。難しい場合は、日常的に使納物が飛び出す場所には置かないなど、防止具設置は

食料を固定し
 や連絡を準備してゐるが
 多かつた
 「阪神大震災は局地的で
 の地域は物が賣る状況に
 が現れてゐた時も西宮
 市など被災地から少し離れ
 一「隣近所が頼れる」(愛一郎)

なる関わり方が急務。1
 月の地域防災訓練などを通
 して進めたい。

(関室) 社会部、武田

今後10年間に震度6強以上の巨大地震が地域で「起こらない」と考える兵庫県民は7割に上り、静岡県民は3割にとどまったことが、神戸新聞社と静岡新聞社、ひょうご震災記念21世紀研究機構の合同調査で分かった。非常用持ち出し品の備えで

兵庫・静岡 防災調査

は兵庫が静岡を大幅に下回った一方、兵庫の避難経験者は家族との連絡方法を決めている割合が静岡より高い。阪神・淡路大震災で被害を受けた兵庫と、長年東海地震に備えている静岡で防災意識の違いが表れている。

(16、17面に特集)

大地震起きない7割

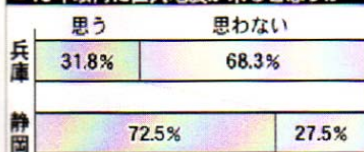
兵庫「断層動いた」「何となく」

調査はインターネット調査会社に依頼し、昨年12月下旬に神戸市と淡路島、静岡県の政令市である静岡市と浜松市の計1600人から回答を得た。「巨大地震が起こらない」と答えた兵庫県民は、「野島断層は既に動いたから」「根拠は無いが何となく」などを理由に挙げた。

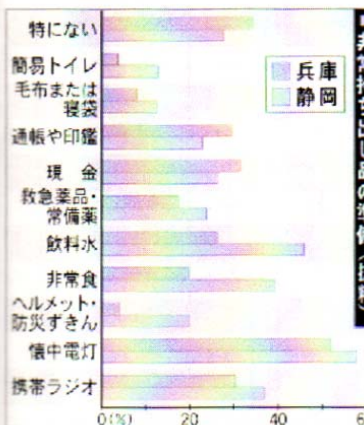
準備している非常用持ち出し品について、25項目を挙げて尋ねたところ、両県ともに「懐中電灯」が最も多く、2位以下は兵庫で「現金」「携帯電話」「通帳や印鑑」の順。静岡は「飲料水」「非常食」「携帯電話」と続いた。兵庫が静岡を上回ったのは「現金」「通帳や印鑑」だけで、残り

静岡3割 危機意識に違い

■10年以内に巨大地震が来ると思うか



※四捨五入のため合計は100%にならない



非常品準備にも差

の23項目はすべて静岡がいていない実態も浮かかった。また、兵庫で避難生活を経験した177人に限られて、同じ25項目から地震発生直後に無くて困った物を尋ねると、飲料水や非常食を挙げた人が多く、避難を経験した人は少ないものの準備している人が少なく、震災時の教訓が現在の備えに結び付いた。

(災害特報班・安藤文暁)

住宅耐震診断の受診率や補強率は両県でほぼ変わらない。地震保険の加入は静岡44%、兵庫は34%だった。兵庫県によると、将来にかけて県内で被害が出る可能性のある地震は65。南海地震は今後30年以内の発生が懸念され、山崎断層帯▽六甲・淡路島断層帯▽有馬・高槻断層帯などで、兵庫も、神戸市内と淡路島では最大震度6強以上

阪神・淡路大震災から16年 避難経験 備えに反映

根拠なき安心は禁物

「根拠なき安心は禁物」をテーマに、山村武彦氏が講演した。山村氏は、阪神・淡路大震災から16年が経ち、避難経験が市民の意識に反映されていると指摘した。しかし、根拠なき安心は禁物であり、備えは必要不可欠であると強調した。

山村氏は、阪神・淡路大震災から16年が経ち、避難経験が市民の意識に反映されていると指摘した。しかし、根拠なき安心は禁物であり、備えは必要不可欠であると強調した。

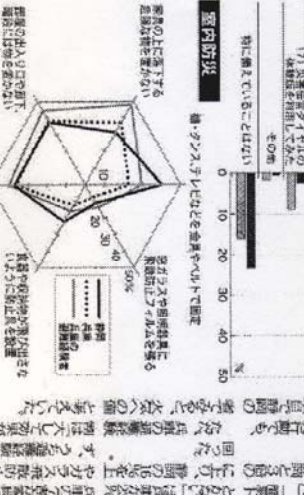
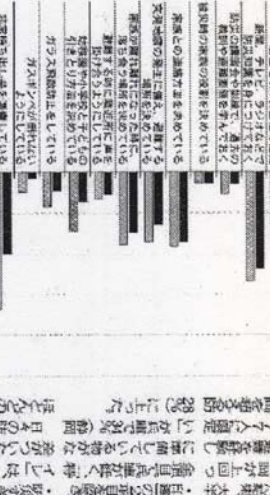
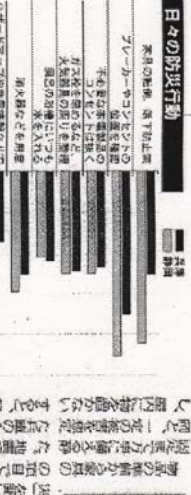
山村武彦氏

復興には経済力必要

復興には経済力が必要である。山村氏は、復興には経済力が必要であると強調した。復興には経済力が必要であると強調した。

復興には経済力が必要である。山村氏は、復興には経済力が必要であると強調した。復興には経済力が必要であると強調した。

山村武彦氏



避難経験が市民の意識に反映されている。しかし、根拠なき安心は禁物であり、備えは必要不可欠であると強調した。

避難経験が市民の意識に反映されている。しかし、根拠なき安心は禁物であり、備えは必要不可欠であると強調した。

避難経験が市民の意識に反映されている。しかし、根拠なき安心は禁物であり、備えは必要不可欠であると強調した。

避難経験が市民の意識に反映されている。しかし、根拠なき安心は禁物であり、備えは必要不可欠であると強調した。

避難経験が市民の意識に反映されている。しかし、根拠なき安心は禁物であり、備えは必要不可欠であると強調した。

避難経験が市民の意識に反映されている。しかし、根拠なき安心は禁物であり、備えは必要不可欠であると強調した。

調査の概要
調査は、阪神・淡路大震災に関する調査。調査は、阪神・淡路大震災に関する調査。

調査の概要
調査は、阪神・淡路大震災に関する調査。調査は、阪神・淡路大震災に関する調査。

調査の概要
調査は、阪神・淡路大震災に関する調査。調査は、阪神・淡路大震災に関する調査。

調査の概要
調査は、阪神・淡路大震災に関する調査。調査は、阪神・淡路大震災に関する調査。

山村武彦氏

山村武彦氏

山村武彦氏

被災地の教訓 共有を

兵庫・静岡合同防災アンケート

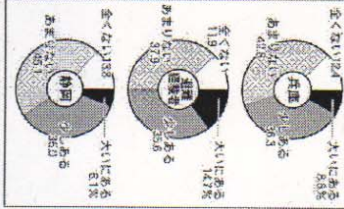
神戸新聞1月13日朝刊

神戸新聞1月13日朝刊

2011年(平成23年)1月13日 木曜日

◇ 地域・防災 特集 第16

被災地生活に
被災した行動を取る自覚があるか

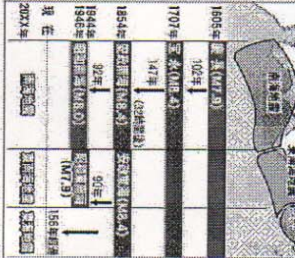


兵庫・静岡合同防災アンケートの結果。被災地生活に被災した行動を取る自覚があるか。大いにある、大いにない、その他。

兵庫は「自信あり」45% 静岡は41%



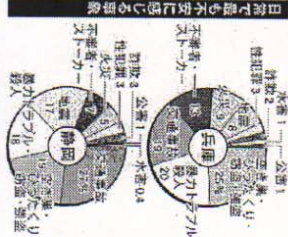
被災地生活に被災した行動を取る自覚があるか。大いにある、大いにない、その他。



被災地生活に被災した行動を取る自覚があるか。大いにある、大いにない、その他。

被災地生活に被災した行動を取る自覚があるか。大いにある、大いにない、その他。

「地震」よりも「犯罪・事故」



「地震」よりも「犯罪・事故」。被災地生活に被災した行動を取る自覚があるか。大いにある、大いにない、その他。

難題ながら高い期待

被災地生活に被災した行動を取る自覚があるか。大いにある、大いにない、その他。

ひょうご 防災新聞

SHEET 0129

倒壊への備え

震度6強以上の地震で倒壊の恐れがある住宅は、兵庫県内で約38万戸とされる。特に1981年6月までの旧耐震基準で建てられた住宅は補強を急ぎたい。

旧基準の住宅は補強を

県内のビルやマンションなどの住宅耐震化率は、2008年時点で82・4%。阪神・淡路大震災で約25万棟が全半壊し、改築や改修が進んだこともあり、全国で4位となっている。

しかし、近年は耐震化率の伸びが鈍化。神戸新聞と静岡新聞、ひょうご震災記念21世紀研究機構が昨年12月に行ったアンケートでは、住宅に漠然とした安心感を抱いている人が目立ったほか、工事費の工面や集合住宅での合意形成の困難さなどが、耐震化を阻んでいることが分かった。

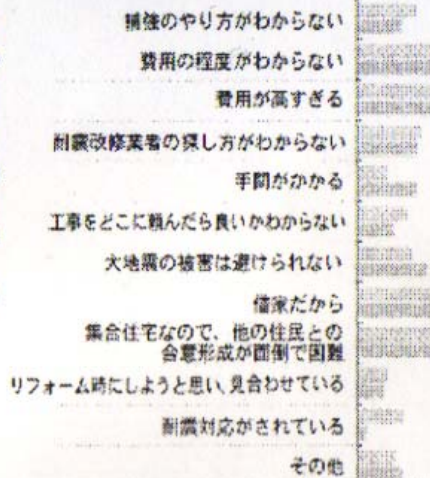
県は15年に耐震化率97%の目標を掲げ、工事に最大80万円を補助する「わが家の耐震改修促進事業」を進める。3月末までの期間限定で30万円の追加補助も実施。さらに、安価な補強法を開発したり、耐震の専門家を派遣する制度を設けたりしており、利用を呼びかけている。

(災害時報道班・安藤文暁)

補強をしない人々の心理



耐震化しない理由



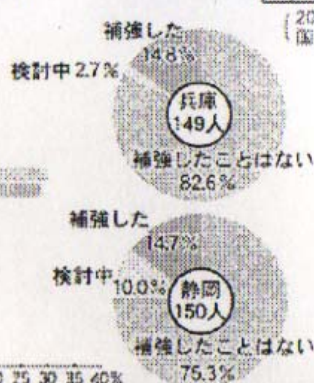
神戸新聞・静岡新聞
ひょうご震災記念21世紀
研究機構合同調査

神戸市・淡路島 800人
静岡市・浜松市 800人

住宅耐震化全国比較

自治体	耐震化率
1 東京	87%
2 神奈川	85%
3 大阪	83%
4 兵庫	82%
4 千葉	82%
4 愛知	82%
4 沖縄	82%
8 北海道	81%
9 静岡	79%
9 福岡	79%
11 京都	78%
11 三重	78%
11 滋賀	78%
14 宮城	77%
15 奈良	76%
15 栃木	76%
15 福島	76%

(2008年時点、国土交通省調べ)



1980年以前の住宅の補強状況

(西暦記入のこの合計が100%になる)

兵庫県民 昨年1年間

避難訓練 参加ゼロ86%

地震に備える避難訓練に年1回も参加していない兵庫県民は8割を超え、地域で訓練などを実施する「自主防災組織」については、6割が存在さえ知らなかったことが、神戸新聞社と静岡新聞社、ひょうご震災記念21世紀研究機構の合同調査で分かった。兵庫県は同組織の世帯組織率を9割超としているが、「隊員」と認識していない住民は多いことが分かった。

(安藤文暁)

調査はインターネット調査会社に依頼し、昨年12月下旬に神戸市と淡路島、静岡県の静岡市と浜松市の計1600人から回答を得た。

避難訓練は昨年1年間の参加回数を尋ね、兵庫では86%が「0回」と回答。このうち、約9割が「訓練がない」「行われているか分からない」とした。訓練の効果を疑問視する人も多く、1回以

効果疑問視 多く

静岡は訓練不参加61%

神戸新聞、静岡新聞など防災で合同調査

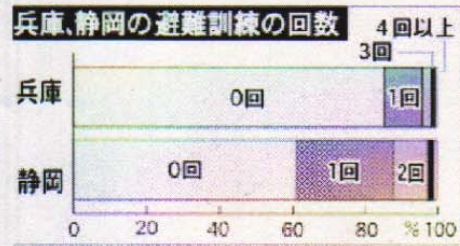
上参加した回答者でも認識していた。「自分が助かる」と考え、一方、自主防災組織に入る人は1割にとどまった。

静岡は「0回」が61%。ただし、うち約半数が「他た」。

「自分が助かる」と考え、一方、自主防災組織に入る人は1割にとどまった。静岡は「0回」が61%。ただし、うち約半数が「他た」。

自主防災組織 兵庫6割存在知らぬ

法に基づく地域組織で、とも県民との意識に大きなずれがあった。



同組織が活動している内容を尋ねると、兵庫の70%が「防災訓練」を挙げた。静岡に比べて18%低かったが、「防災意識の普及・啓発」は静岡を11%上回る66%だった。静岡は訓練を、兵庫は啓発を重視している傾向がうかがえた。

進んだ。自治会などが市町に申請すると全世帯が「隊員」に登録され、災害に備えて訓練に参加し、活動内容を把握することが求められる。組織率について兵庫県は96%、静岡県はほぼ100%としており、両県とも県民との意識に大きなずれがあった。

「隊員」に登録され、災害に備えて訓練に参加し、活動内容を把握することが求められる。組織率について兵庫県は96%、静岡県はほぼ100%としており、両県とも県民との意識に大きなずれがあった。

謝辞

本研究を行うに当たり、公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構の貝原俊民理事長、野々山久也、林敏彦両研究統括と林万平研究員をはじめ機構の皆様には、そもそも研究の機会と全面的な支援をいただいた。防災システム研究所の山村武彦氏、兵庫県庁、静岡県庁の皆様には、アンケートの質問設計から結果の評価の仕方まで様々なアドバイスをいただいた。

またアンケート結果は、神戸新聞と静岡新聞で掲載した。静岡新聞社の武田愛一郎記者をはじめ、同社の方々には調査全般にわたり、協力をいただいた。インターネットアンケートをお願いした「日経リサーチ」の岡宏美氏、また質問に丁寧にご回答いただいた登録モニターの皆様を含め、ここに記してあらためて謝意を表する。